B045472

法学

日本評論社

大澤和辞典

清搨轍次著

木部

【木】 14415

ボク モク 〔集韻〕莫卜切 屋

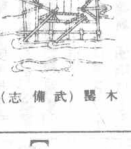
小篆 ❶き。㋑たちき。幹支が草本類より長大堅固な植物の泛稱。〔說文〕木、冒也、冒ル地而生、東方之行、从レ屮、下象ニ其根一。〔釋名、釋天〕木、冒也、華葉自覆冒也。〔白虎通、五行〕木之爲レ言、觸也、陽氣動躍、觸レ地而出也。〔易、離〕百穀草木麗ニ于土一。〔莊子、山木、釋文〕木、衆樹之總名。㋺ざいもく。木材。工作の材料。〔周禮、考工記、總目〕攻木之工七、輪・輿・弓・廬・匠・車・梓也。〔論語、公冶長〕朽木不可レ雕也。㋩五行の一。其の首位に當つて生育の德があるもの。方位では東、人倫では臣、四季では春、五音では角、五星では歲星、十干では甲乙、五常では仁、五味では酸、五臭では羶に配する。〔易、說卦〕巽爲レ木。〔春秋繁露、五行之義〕木、五行之始也。〔淮南子、天文訓〕甲乙寅卯爲レ木。〔白虎通、五行〕木味所ニ以酸一、何、月令曰、東方、其臭羶。〔漢書、魏相傳、執規司レ春、注〕張晏曰、木爲レ仁。〔隋書、五行志〕木者東方。〔南齊書、五行志〕木者春。❷**木材で製作した器具**。〔儀禮、既夕禮〕抗木橫三縮二。〔後漢書、五行志〕皆著ニ木履屐一。❸**ひつぎ**。棺椁。〔禮、檀弓下〕原壤登レ木。〔注〕木、椁材也。〔左氏、僖、二十三〕如レ是而嫁、則就レ木矣。〔後漢書、耿純傳、注〕木、謂レ棺也。❹**かせ**。桎梏。〔莊子、列禦寇〕爲ニ外刑一者金與レ木也。〔注〕木、謂ニ椿楚桎梏一。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕關ニ三木一。〔注〕三木、在ニ項及手足一也。❺**八音の一**。木製の樂器。〔周禮、春官、大師〕金石土革絲木匏竹。〔注〕木、柷敔也。❻**草**。〔說文通訓定聲〕木、五行不レ言、艸、艸亦木也。❼**星の名**。木星の略稱。〔文天祥、贈葉大明一詩〕我生有レ命殊六六、木孛循環相起伏。❽**かざりがない**。素樸。樸(6－15495)に通ず。〔說文通訓定聲〕木、叚借爲レ樸。〔周禮、春官、巾車〕木車。〔注〕木路不レ漆者。〔論語、子路〕剛毅木訥。〔集解〕木、謂ニ質樸一。〔漢書、周勃傳〕勃爲レ人木強敦厚。〔注、師古曰〕木、謂ニ質樸一。❾**鶩羽を飾つた冠**。鶩(12－47142)に通ず。〔說文通訓定聲〕木、叚借爲レ鶩。〔淮南子、道應訓〕乃去ニ其瞽一而載ニ之木一。〔注〕木、鶩鳥冠也、知ニ天文一者冠レ鶩。❿**姓**。〔尙友錄〕木、吳興商音、端木賜之後、因レ避レ仇改爲レ木、又百濟八姓、其一曰ニ木氏一。⓫**捩じれる**。知覺がない。**熟語** ❶**き**。芝居で拍子木(6－11952‥16)の略稱。❷**ぼく**。曲りくねつて古びた樹幹や根。❸**もく**。木目(451)の略稱。❹**いき**。姓。

名乘 シゲ。

解字 象形。屮は木の幹と枝、冂はその根をあらはす。卽ちたちきの形にかたどつたもの。

參考 朮(6－14416)・朮(6－14423)・朱(6－14418)は別字。〔康熙字典、辨似、四字相似〕木、音沐、草木。朮、同ノ秫。朮、匹刃切、分ニ枲莖皮一也。朱、音潑、草木盛米米然也。

【木罌】ボクオウ 木で作つた瓶。〔墨子、備城門〕用ニ瓦木罌容ニ十升以上一者。〔閒詁〕是罌、或瓦、或木、皆可ニ以盛ニ水也。〔武備志、木罌圖說〕木罌者、縛ニ甕缶一以爲レ筏、甕缶受ニ二石一、力勝ニ一人一、甕閒容ニ五寸一、下以ニ繩勾聯一、編ニ槍其上一、形長而方、前置ニ筏頭一、後置ニ稍一、左右置ニ棹一。



木罌（武備志）

【木罌瓿】ボクオウブ 木製の瓶で、水を渡るに用ひる一種の筏。又、木に瓶を縛つて浮かせた筏の類。かめのいかだ。甕筏。〔史記、淮陰侯傳〕以ニ信爲ニ左丞相一擊ニ魏一、魏王盛ニ兵蒲坂一、塞ニ臨晉一、信乃益爲ニ疑兵一、陳ニ船欲一渡ニ臨晉一、而伏ニ兵一、從ニ夏陽一以ニ木罌瓿一渡レ軍、襲ニ安邑一。〔注〕集解曰、徐廣曰、瓿、一作レ缶、服虔曰、以レ木押ニ縛罌瓿一以渡、韋昭曰、以レ木爲ニ器如ニ罌瓿一以渡レ軍、無レ船、且尙密也。〔日知錄、論兵、木罌瓿渡レ軍〕史記淮陰侯傳、從ニ夏陽一以ニ木罌瓿一渡レ軍、服虔曰、以レ木押ニ縛罌瓿一以渡、是也、古文簡不レ言レ縛爾、吳志孫靜傳、策詐令ニ軍中促具ニ罌缶數百口一、分ニ軍夜投ニ查瀆一、亦此法也、其狀圖ニ於喩龍德兵衡一、謂ニ之甕筏一。

【木罌渡軍】ボクオウトグン 木罌瓶を船に代用して軍を渡す。木罌瓿を見よ。

【木押】モクオウ 木製の署印。〔商子、定分〕謹藏ニ其石券木押一、以レ室藏レ之。

【木庵】ボクアン 木菴を見よ。

【木菴】ボクアン 字號。❶清、錢良擇(11－40563‥445)の字。❷清、陳書(11－41698‥352)の號。❸清、王晫(7－20823‥760)の號。❹那波守之の號。那波木菴(11－39305‥81)を見よ。

【木威】モクイ 樹木の名。うらん。せいらん。葉は棟葉に似、實は堅くて橄欖に似る。木威子。烏欖〔本草、木威子〕集解、藏器曰、木威生ニ嶺南山谷一、樹高丈餘、葉似ニ棟葉一、子如ニ橄欖一、而堅、亦似ニ棗一、削ニ去皮一、可ニ爲ニ棕食一。〔黃庭堅、游ニ龍城南一記〕木威之葉、廣東西人用作ニ雨衣一、柔韌密緻、勝ニ青竹一也。〔事物異名錄、果蓏、橄欖〕廣志、東向枝曰ニ橄欖一、南向枝曰ニ木威一。

【木印】モクイン 木材に刻した印。〔輟耕錄、印章制度、北齊有ニ木印一、長一尺廣二寸五分。〕

【木印記】モクインキ 印形の扣帳。〔幅惠全書、范任部、攷代書〕發ニ一小木印記一、上刻ニ正堂花押一。

【木蔭】10 ボクイン ここかげ。樹木のかげ。樹蔭。〔玉澗雜書〕讀二書籍一、木蔭聽二鳥聲一。

【木隱】11 ボクヰン 木蔭にかくれる。又、其のところ。

【木羽】12 ボクウ 仙人の名。鉅鹿南和の人。母貧賤、常に產婦を助く。兒木羽有り、年十五、夜、車馬來り迎へて木羽を呼ぶ。木羽遂に俱に去る。〔左思、魏都賦〕木羽俱仙。〔注、良曰、木羽者、鉅鹿南和人也、母貧賤常助二產婦一、兒生自下唆一母、母大怖、暮夢見二大冠赤幘守一兒、言、此兒司命君也、當報二汝恩一、使子與二木羽一俱仙、母陰信識之、後兒生、字之爲二木羽一、兒至二年十五、夜有二車馬一來迎之、呼二木羽一、木羽爲我御來、遂俱去。

【木英】13 mu² ying¹ にはとこ。接骨木の異名。

【木妖】14 ボクヨウ 唐の內臣攻帥の綽名。亭館第宅を建てることが餘りに甚だかつたため木の妖精といはれた。〔南部新書〕唐內臣攻帥、競治二亭館第宅一、時號二木妖一。

【木曜】15 モクヨウ 七曜の一。

【木曜日】16 モクヨウビ 七曜の一。日曜日より第五日目。

【木易】17 ボクエキ ●楊姓の人をいふ。楊の字を分けると木易となるからいふ。〔野客叢書〕今人稱二姓楊人一爲二木易一、案、楊氏姓、文左從二木、右從一易、非二從易一、云云、眞詰有二爲二姓楊一人一作離合書一、但、偃息盛木、玩二執周書一、其意謂、周書爲二易一、木加易卽楊字也、乃知、以二木易一爲二楊姓一、其誤久矣。●複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕木易氏、後魏有二木易子一。

【木液】18 ボクエキ 木から出るやに。〔洞天清錄〕桐木年久、木液去盡。

【木葉】19 モクヨウ ●木の葉。このは。〔列子、黃帝〕隨風東西、猶二木葉幹殼一。〔楚辭、九歌、湘夫人〕嫋嫋兮秋風、洞庭波兮木葉下。〔謝莊、月賦〕洞庭始波、木葉微脫。〔李白、秋思詩〕天秋木葉下、月冷莎雞悲。●㋑輕いもの。無力なもの。つまらぬもの。㊁肥後國の地名。

【木葉衣】20 ボクヨウイ 仙人の著る衣。木の葉を編んで造る。又、落葉を身に被るを衣に見たてていふ。〔謠曲、雨月〕木の葉衣の袖の上。

【木葉隱】21 ボクヨウ 木の葉衣の蔭にかくれる。木の葉の下にうづまる。〔後撰和歌集、夏〕木の葉がくれの聲は聞ゆや。

【木葉下】22 ボクヨウ 常陸國の地名。

【木葉山】23 ボクヨウ 山名。●滿洲熱河省赤峯縣の北境。契丹始祖の廟がある。遼太祖の發祥の地。〔遼史、地理志〕永州、太祖於二此置一南樓、東潰河、南土河、二水合流、故號二永州一、謂二之冬巴一納一有二木葉山一、上建二契丹始祖廟一、每二行軍及春秋時祭、必用二白馬青牛云云不忘本一。●滿洲熱河省克什克騰旗の北。蒙古名は几几恩都爾山。

【木葉石】24 ボクヨウ ●植物の莖・葉・枝等の痕跡を留めた岩石。植物の化石。●鑛泉の噴出する附近の地で、其の中に落ちた木葉の組織中に鑛泉から遊離した石炭・硅酸等の鑛物質が沈澱して石化し、木葉の狀をなす岩石。

【木葉蝶】25 ボクヨウチョウ 蝶の一種。翅の表面は紫紅色と黃赤色とを交へ、裏面は褐色で暗色の條紋がある。枝にとまつて翅を斂めると、枯葉のやうに見える。

【木葉時雨】26 コノハシグレ 木葉が時雨のやうに飛散すること。〔萬代和歌集、冬〕木の葉しぐれの絕ゆる夜ぞなき。

【木葉取月】27 コトリツキ 陰曆四月の異稱。桑の葉を採取する月。〔祕藏抄〕四月、このはとり月。

【木葉武者】28 コノハムシャ 雜兵。數にも入らぬつまらぬ武者。〔つぼむしや〕〔曾我會稽山、四〕木葉武者五十百斬つたるとて。

【木蔦】29 モクテウ 木造の蔦。鳥形をした木製の凧の類。とんびだこの一。〔韓非子、外儲說左上〕墨子爲二木蔦一、三年而成、飛一日而敗。〔鴻書〕公輸般爲二木蔦一、以窺二宋城一。

【木鹽】30 ボクエン ●果實の名。ふしのきのみ。〔本草、鹽麩子〕釋名、木鹽、藏器曰、蜀人謂二之酸桶一、亦曰二酢桶一、吳人謂二之鹽麩一、皮人謂二之木鹽一。●木から採れる塩。鹽泉から騰つた氣の凝つたもの。〔本草、鹽麩子〕集解、後魏書云、勿吉國水氣鹹、凝鹽生二樹上一。

【木屋】31 ボクヲク ●木の屋舍。木造家屋。〔晉書、馬隆傳〕路狹則爲二木屋一、施二於車上一。●㋑大工が仕事をする小屋。〔雍州府志、七〕工匠、云云、其所作工之處謂二木屋一。㊁材木の賣買を業とする家。材木屋。㋒材木を納れ置く小屋。材木小屋。

【木下】32 モクカ ●木の下。樹下。〔拾遺記〕愈二此木下一、皆不二死不一病一。●下總國の地名。●姓氏。〔姓氏家系大辭典〕

【木下闇】33 コノシタヤミ 木蔭の暗いこと。又、其の處。こぐれ。〔拾遺和歌集、夏〕木の下闇にともす火。

【木下影】34 コノシタカゲ こかげ。木のかげ。木の下。〔拾遺和歌集、戀、四〕木の下かげの岩清水。

【木下菊所】35 キノシタギク 江戶の人。名は元高。字は平之。通稱は道圓。號は菊所。享保元年十二月二十七日歿す。著に煙草唱和集（一名、流霞唱和集）・好書館漫筆・菊所集・莚撞餘錄・蒐子問がある。〔近代著述目錄後篇〕

【木下犀潭】36 キノシタサイタン 肥後の人。名は業廣。字は子勤。號は犀潭。又、犀村・澹翁。通稱は宇太郎、又、眞太郎。慶應三年五月歿す、年六十三。佐藤一齋に師事す。著に犀村遺稿・同拾遺・同附錄がある。〔佐藤一齋と其の門人〕。

【木下順菴】37 キノシタジュンアン 京都の人。名は貞幹。字は直夫。號は順菴。又、錦里・敏慎齋・蕭薇洞。通稱は平之允。私謚は恭靖先生。元祿十一年十二月二十三日歿す、年七十八。松永尺五に師事す。官は幕府儒官。其の學、程朱を宗とし、博學宏才、一世の敬慕する所となり、其の門に成德達材の士多く輩出す。瞻正四位。著に錦里文集・班荊集がある。〔先哲叢談、正、三〕〔近代名家著述目錄〕。

【木下蘭皋】38 キノシタランカウ 尾張の人。名は實聞。字は公達又、希聲。號は蘭皋。又、玉壺眞人。通稱は宇左衛門。寶曆二年八月六日歿す、年七十二。岡嶋冠山・荻生徂徠に師事す。官は名古屋藩儒。著に厚竈草拾遺・客舘瑤槃・玉壺吟草・同附錄・玉壺詩集・玉壺樓詩集・吳下舊聞・虎溪記・壺中放唫・蘭皋遺文・蘭皋子・往還日記がある。〔先哲叢談、續、七〕。

【木稼】39 ボクカ 樹枝に著いた雨雪が寒氣のために氷となつたもの。木介。樹稼。〔舊唐書、睿宗諸子傳〕開元二十九年、京城苦寒、凝霜封二樹、寧王憲見而歎曰、此俗謂二木稼一者也。〔石林詩話〕王冀公作二韓魏公挽辭一云、木稼曾聞達官怕、山頹今見哲人悉。

【木芽】40 ボクガ ●樹木の芽。きのめ。〔白居易、酬二李二十侍郎一詩〕行掇二木芽一供二野食一、坐牽二蘿蔓一挂二朝衣一。●㋑山椒の芽をいふ。㊁茶をいふ。茶の若葉を摘んで煎りあぶつたもの。煎茶。

【木芽月】41 キノメヅキ 陰曆二月の異名。

【木芽蝨】42 キノメジラミ 山椒の芽を摺り混ぜたあへもの。

【木蛾】43 ボクガ 木耳の異名。きくらげ。〔本草、木耳〕釋名、木菌・木蕈・樹雞・木蛾。

【木鵝】44 ボクガ ●攻城の具。〔舊唐書、薛愿傳〕愿爲二潁川太守一、賊將阿史那承慶悉以二銳卒一併攻、爲二木驢木鵝雲梯衝棚、四面雲合一。●水の深淺を測る具。〔大業拾遺記〕命二雲屯將軍麻叔謀一、潛二黃河一、入二汴隄一、使二勝二巨艦一、叔度以二鐵腳木鵝一試二淺深一。●木で作つた鵝。〔芝田錄〕隋煬帝時、羣盜蜂起、刻二木鵝一繫二沼邊頭一、放二清洲一、賓二敎兵至一、隊餘叢考、木鵝〕隋東都被二匿一、越王侗以二木鵝一隨二水而下一、冀二達二江都一求二救一。●洲の名。安徽省桐城縣の東南の江濱。〔讀史方輿紀要、江南、安慶府、桐城縣〕樅陽河、志云、樅陽東十餘里接二三江口一、有二鐵坂洲・羅塘洲・木鵝洲一、皆在二江濱一、相傳、周世宗與二南唐一割二江爲一界、以二木鵝一浮二江中一、隨二其所一至以定二南北一、鵝沿洲東下、故以二木鵝一爲二名。

【木介】45 ボクカイ 樹枝に著いて寒氣のために氷となつた雨雪。木稼。木冰。〔樹稼〕。〔穀梁、成、十六、雨木冰、注〕雨木冰者木介、甲冑、兵之象。〔漢書、五行志〕今之長老、名二木冰一爲二木介一、介者甲、甲、兵象也。

【木枴】46 ボクカイ 老人の杖。〔五代史、漢高祖紀〕遣二王峻・奉二表契丹一、耶律德光呼二之爲一兒、賜以二木枴一、謂曰、法食之如二中國几杖一、非優二大臣一不可得、峻持二枴歸一、虜人望之皆辟道。

【木械】47 ボクカイ 木のかせ。〔晉書、五行志〕犯鈇二左右趾者一、易以二木械一、之鐵故也。

【木階】48 ボクカイ 木の梯子。〔事物紺珠〕梯、木階。

【木蟹】49 ボクカイ 草の名。木鼈子の異名。〔本草、木鼈子〕釋名、木蟹、志曰、其核似二隨蟹狀一、故以爲一名。

【木行】50 mu⁴ hang² 材木屋。

【木杠】51 木製の乗りもの。〔宋史、占城國傳〕乘二木杠、四人昇之。

【木香】52 ●みずぎく。菊科に属する草本。五木香。〔本草、木香〕〔會圖才木三〕

【木香花】53 薔薇科、薔薇属の攀登性小木本。葉は五小葉の羽状複葉、花は黄色で複瓣芳香あり。すだれいばら。もくかうくわ。

【木桁】54 木のけた。〔儀禮、既夕禮〕皆木桁、久之。〔後漢書、禮儀志〕黍飴載以二木桁一、覆以二疏布一。

【木梗】55 木製の人形。でく。木偶。〔戰國、趙策〕夜半土梗與二木梗一鬬。

【木梗人】56 木製の人形。でく。木梗。木梗之患を見よ。

【木梗之患】57 他郷で客死して故郷に還られないこと。〔說苑、正諫〕孟嘗君將二西入一秦、客人曰、臣之來也、過二于淄水上一、見二一土偶人與二木梗人一語、木梗謂二土偶人一曰、子先土也、持二子一以爲二偶人一、偶天大雨、水潦並至、子必沮壞、應曰、我沮乃反二吾眞一耳、今子東園之桃、刻二子一以爲二梗一、過二天大雨水潦並至一、必浮二子泛泛乎不二知一所二止一、今秦四塞之國也、有二虎狼之心一、恐其有二木梗之患一、于レ是孟嘗卒不二敢西嚮一秦。

【木角】58 薪木とひしやく。〔禮、喪大記〕君喪、虞人出二木角一。〔注〕木給二虞竈一、角以爲二斟一水斗壺湯之器一也。樹木の名。觀賞用として栽培し、木材は種々の用途に供す。楸。木豆豆。

【木角豆】59

【木客】60 ●きこり。樵夫。〔蘇軾、詠二湯泉一詩〕山中惟木客、戶外時芒履。〔玉壺遐覽〕神仙傳有二木客一、薪二於山中一。〔稱謂錄、百工、木客〕顧府、徐鉉謂、鄱陽山中有二木客一、自言秦時造二阿房宮一、採二木者一。●山間有二木客一、形骸皆人也、但鳥爪耳、巢二於高樹一、一名山精。〔蘇軾、虞州八境詩〕山中木客解吟詩。

【木客吟】61 越王句踐が吳王に名山の神材を獻ずるために、木こり三千人をして山に入り木を伐らしめたところ、皆望怨の心あり、此の吟を歌ふといふ。又、一說に、句踐が工人をして榮楯を伐らせ吳に獻ぜんとしたために、久しく歸ることが出來なかつたので、工人憂思して此の吟を作つたといふ。〔吳越春秋、句踐陰謀外傳〕吳王好起二宮室一、用二工不一輟、選二名山神材一、奉而獻之、越王乃使二木工三千餘人一、入二山伐一レ木、云云、皆有二望怨之心一、而歌二木客之吟一。〔水經、漸江水注〕句踐使二工人伐一榮楯一、欲二以獻一吳、久不得レ歸、工人憂思、作二木客吟一。

【木客鳥】62 鳥の名。大きさは鵲の如く、群棲して衆鳥とまじらないといふ。〔述異記〕廬陵有二木客鳥一、大如レ鵲、千百爲二羣一、不レ與二衆鳥一相廁一、俗云、是古之木客化作。

【木觚】63 檀木の異名。〔爾雅、釋木、棧木干木、注〕檀也、江東呼二木觚一。

【木槁】64 屏風の骨。こま。〔閒情偶寄〕屏不レ用レ板、而用二木槁一。

【木闌】65 あししろ。高所に登るため木材を組立てて造つた足掛り。〔戰國、齊策〕故爲二棧道木闌一、而迎二王一與レ后於城陽山中一。〔注〕棧道木闌、皆以通レ險。

【木覺】66 mù chüeh? 感覺が鈍い。智覺がない。

【木蘭】67 蘇州地方の發音は mè-lè。木文庫。木の箱。〔畫繼〕初教時、以二木匣一、束二其身一。〔福惠全書、錢穀部、催徵〕其錢用二木匣一、另貯。

【木峽】68 關の名。甘肅省固原縣の西南。又、隴山の口。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府、鎭原縣〕木峽關、在二縣西南一、亦隴山之口也、元魏永熙三年、宇文泰討二侯莫陳悅一、水洛城、至二原州一、衆軍畢集、遂引二兵上一隴山木峽關一是也。

【木干】69 mù kan? 日光で乾燥した椎茸。

【木桿】70 木の棒。〔宋史、兵志〕騎兵佩二弩陣刀一、訓肄時以二木桿一代之。

【木桶】71 mù han? 地中に埋めた水樋。

【木幹】72 木のみき。〔益部方物略記〕木幹芋葉、擁踵盤戾。

【木簡】73 古、紙の無かつた時、木を削つて文字を記したふだ。〔漢書、高帝紀、吾以二羽檄一徵二天下兵一、注〕師古曰、檄者以二木簡一爲レ書、長尺二寸、用二徵召一也。

【木罹】74 材と不材との間をいふ。樹木は役に立つものは伐られ、不材のものは伐られずに助かるが、雁は反對によく鳴くものは助かり、鳴かないものは殺されるといふ荘子の寓話。〔荘子、山木〕荘子行二於山中一、見二大木枝葉盛茂一、伐レ木者止二其旁一、而不レ取也、問二其故一、曰、無所可レ用、荘子曰、此木以二不材一得レ終、其天年、夫子出二於山一、舍二于故人之家一、故人喜、命二豎子一、殺レ鴈而烹レ之、豎子請曰、其一能鳴、其二不能鳴一、請奚殺、主人曰、殺二不能鳴者一、明日弟子問二於荘子一曰、昨日山中之木、以二不材一得レ終、其天年、今主人之鴈以二不材一死、先生將何處、荘子笑曰、周將處二夫材與一不材之間一。〔南史、檀道濟傳論〕詔祇克傳、胤嗣、其木罹之間乎。〔倭漢朗詠集〕木雁一篇須二記取一、致レ身材與二不材一間。「號。

【木雁子】75

【木雁居士】76 宋、周貫(2-3441‥130)の「76」の號。

【木肌】77 樹木の皮。

【木紀】78 木德の王朝。〔沈約、木紀謝〕木紀謝、火運昌。

【木紀謝】79 梁鼓吹曲の名。梁、沈約作。其の首句を取つて名づく。〔隋書、樂志〕梁高祖制二鼓吹新歌十二曲一、曰、木紀謝、賢首山、桐柏山、道亡、忱威、漢東流、鶴樓峻、昏主恣淫慝、石首局、期運集、於穆、惟大梁、云云、漢第一曲朱鷺改爲二木紀謝一、言二齊謝梁升一也。

【木氣】80 木材を乾溜するとき發生する瓦斯。一酸化炭素、水素、炭酸瓦斯、重炭化水素等から成る。我が國在來の炭燒の際にもこれを生ずる。此の瓦斯は主に燈用に供せられ、石炭瓦斯よりも光力強く、且、製法・精製法が簡便なので、木材の廉價な地方では多く之を石炭瓦斯に代用する。Wood gas

【木熙】81 百戲の一。竿登り・綱渡りの類。かるわざ。〔淮南子、脩務訓〕木熙者、與二梧檟一、據二句枉、蝯自縱、好二茂葉一。〔注〕熙、戲也。〔通雅、戲具〕木熙、卽都盧緣橦之戲也、卽今之上高竿立竿三丈、緣二其頂一、舒二臂按一竿、通體空立者、移二時也、受二竿以腹一、而項手足張、輪轉、移時也、唧竿、身平橫空、如二地之伏一、手不レ握、足無二垂也一、背竿髀夾之、則合二其掌一、拜二起於空一者、數也、蓋倒身忽下、如二飛鳥墮一。

【木器】82 ●木製のうつは。木具。〔荀子、禮論〕木器不二成斲一、陶器不二成物一。〔揚雄、長楊賦〕大廈不レ居、木器無二文一。〔漢書、貨殖傳〕木器桼者千枚、〔後漢書、郎顗傳〕孝文皇帝、絺袍革舄、木器無二文一。●〔ヴ〕攝津國の地名。

【木錡】83 兵器を掛けるもの。兵器架。〔金史、禮志〕神門列レ戟各二十有四、植以二木錡一。

【木簋】84 禮器の一。木製の容器。〔詩、秦風、權輿、於我乎每食四簋、疏〕簋亦以二木爲一之也。

【木櫃】85 ●ひつ。箱。〔唐書、天文志〕以二木櫃一、爲二地平令儀一、半在二地下一、晦明朔望、遲速有準。●堤防を堅固にするために用ひるはこ。〔元史、河渠志〕以二水湧雖一施レ工、遂作二蓮隊木櫃一。

【木牛】86 ●木で作つて牛の形をした車。木牛流馬を見よ。〔蜀志、後主劉禪傳〕九年春二月、亮復出二軍圍二祁山一、始以二木牛一運。●轆轤仕掛けの耕具。長い繩で犂と轆轤とを連結し、一人犂を扶け、二人で轆轤を運轉すれば、犂は去來して能く耕作の用をなすもの、兩牛の力があ

る。〔南越筆記、三十一〕木牛者、代耕之器也、以二兩人字架一施之、架各安二轆轤一具、轆轤中繫以二長繩六丈、以二一鐵環一安繩中、以貫二犂之曳鉤一、用時、一人扶二犂、二人對二坐架上、此轉則犂、彼轉則犂去、一手能有二兩牛之力一、耕具之最善者也。

【木牛流馬】87 諸葛亮が牛馬に象って創造した機械仕掛けの兵糧を運ぶ車。〔蜀志、諸葛亮傳〕亮性長二於巧思一、損益連弩、木牛流馬、皆出二其意一。〔注〕亮集載作二木牛流馬一法曰、木牛者、方腹曲頭、一脚四足、頭入二領中一、舌著二於腹一、載多而行少、宜二可一大用一、不二可一小使一、特行者數十里、羣行者二十里也。〔格致鏡原〕稗編、蜀相諸葛亮之出征、始造二木牛流馬一、以運二餉一、蓋巴蜀道阻、便二於登陟一、故耳、木牛卽今小車之有二前轅一者、流馬卽今獨推者是、而民間謂二之江州車一、按、後漢郡國志、巴蜀有二江州縣一、疑亮始作二之江州縣一、故後人以爲二名也。

【木匡】88 太鼓の胴。〔元史、禮樂志〕鼓制、以二木爲一匡。

【木強】89 樸直で一徹。ごつごつしてゐる。ぶこつ。木彊。木強人を見よ。〔墨莊漫錄〕渭州都巡檢愚、其爲人剛方不撓、好二面折一、一州號二木強一。〔書言故事、惡性類〕揆純無二文曰一木強。

【木強人】90 武骨者。融通の利かない人。〔漢書、周昌傳贊〕周昌、木強人也。〔師古曰、言下其強直如二木石一然上。〔事物異名錄、玩戲、圍棋〕瀟湘錄、馬摩鎭、淮南、有二一叟一、謁之、稱二南山木強人一、能論二兵法一、驗之乃一棋局耳。

【木強則折】91 強い樹木は風雪に折れ易い。強いものは却って滅び易い喩。〔老子、七十六〕兵強則不二勝、木強則折一、強大處二下、柔弱處上。〔後漢書、馮魴傳〕兵強則滅、木強則折、革固則裂、齒堅於舌二而先一之敝。

【木彊】92 素朴で飾らない。ぶこつ。木強に同じ。〔駢雅、釋訓上〕木彊、嫬直也。〔史記、周勃世家〕勃爲人、木強敦厚、高帝以爲可屬二大事一。〔漢書、尹齊傳〕輕齊木彊少文。

【木彊人】93 ぶこつもの。木強人に同じ。〔史記、張丞相傳贊〕周昌、木彊人也。〔注〕正義曰、言二其質直掘強一如二木石一焉。

【木彊則折】94 強い樹木は風雪に折れ易い。木強則折に同じ。〔列子、黃帝〕老聃曰、兵彊則滅、木彊則折。

【木腳】95 mu4 chiao3 漢字の偏旁の名。ひらぎ。

【木腳道】96 はねいた。渡し板。飛板。跳板。〔養痾漫筆、曹彬潘美伐二江南一、城既破、李煜白衫紗帽見二、公船前一、獨設二一木腳道一、煜徘徊不レ能進。

【木屬】97 底を木で作ったくつ。〔漢書、王褒傳、雜疏釋屬而享二膏粱一、注〕張晏曰、離二此疏食一、釋二此木屬一也。

【木弓】98 きゆみ。木で作った弓。〔後漢書、東夷傳〕其兵有二矛楯木弓竹矢一。

【木居】99 ❶樹木に棲む。〔傅亮、封二劉裕一爲二宋公一詔〕木居海處之酋、被髮雕題之長。❷鷹が木にとまって居ること。又、其の木。

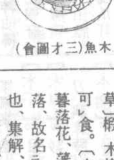
【木居士】100 自然木で造った神佛の像。〔韓愈、題二木居士一詩〕火透波穿不レ計春、根如二頭面一、餘如二身、偶然題作二木居士一、便有二無窮求一福人一。〔書言故事、鬼神類〕木刻二神像一、曰二木居士一。

【木居鳥】101 鷹の異名。〔藏玉集〕こる鳥、鷹。

【木渠】102 木芝(208)をいふ。〔駢雅、釋草〕木渠、木芝也。〔抱朴子、仙藥〕木渠芝、寄二生大木上一、如二蓮花一、九莖一叢、其味甘而辛。

【木蘂】103 草の名の異名。〔海錄碎事、草木雜花〕木蘂、芙蓉也、山谷詩、紅裝滿二院木蘂秋一。

【木魚】104 ❶經をよむ時にたたき鳴らす佛具。木を刻んで魚形とし、中空にしたもの。〔北史、隋紀〕開皇十年、頒二木魚一、符於京百五以上、制作原始〕隋設二木魚一、僧志林造。〔撫言〕有二一白衣一、問二天竺長老一、僧舍悉懸二木魚一、何也、答曰、用以警衆、白衣曰、必刻魚、有二何因一也、長老不レ能答、遣二僧以問一琅山悟上師一、師曰、魚晝夜未二嘗合一目、亦欲修行者晝夜忘一寐、以至二于道一也。〔和漢三才圖會、佛供器、木魚〕三才圖會云、木魚、刻二木爲一魚形一、空二其中一、敲之有レ聲。❷禪家で梆と呼び、庫裏に吊し、齋食の時に叩く。其の形は挺直の魚形である。〔朱熹、詩〕粥飯何時共木魚。〔敕修清規法器章〕相傳謂、魚晝夜常醒、刻レ木象レ形擊之、所以警二昏惰一也。〔書言字考節用集、七、器財門〕木魚、禪家具。❸椶櫚の實。〔樓魚(6－15078・1)を見よ。〔蘇軾、樓筍詩〕贈君木魚三百尾、中有二鷲黃子魚一。❹鰹節の異稱。


(會圖才三)魚木

【木魚講】105 ❶多人數集り、木魚を叩いて讀經すること。〔嬉遊笑覽、五、宴會、無情講〕❷ねんぶつこう。輪姦。

【木斤】106 樹木についた氷。木介(45)に同じ。〔事物異名錄、坤興、冰〕七修類藁、木冰者南及レ木而凝冰、諺云、木稼也、洪範五行傳謂二之木斤一、范氏謂二之木介一、又唐書謂二之樹介一、亦曰二樹稼一。

【木欣】107 清、曹本榮(5－14297・314)の字。

【木掀】108 木製のシャベル。〔飲硯譜〕背鋤、木掀。

【木琴】109 樂器の一。一方狹く、他方の開いた匣の上に、厚薄、度を異にする幅の狹い板を並べ、叩けば高低相異なる音を發す。

【木菌】110 木耳の異名。きくらげ。〔本草、木耳、釋名、木橿、木菌、木蹤、樹雞、木蛾、木蕈、朝華暮落者。〔禮、月令〕仲夏之月、云云、半夏生、木蕈榮。

【木槿】112 ❶落葉灌木の一。むくげ。もくげ。蕣は高さ六尺乃至一丈。葉は互生で楔狀卵形。花は鐘狀大形で、朝に開き夕に萎む。〔爾雅、釋草〕椵、木槿、櫬木槿(注)似二李樹一、華朝生夕隕、可レ食。〔本草、木槿〕釋名、椵、櫬、蕣、日及、朝開暮落花、藩籬草、花如玉蕊、時珍曰、此花朝開暮落、故名二日及一、曰二槿曰一舜、猶二僅榮一瞬之義一也、集解、宗奭曰、木槿花如二小葵一、淡紅色、五葉成二一花一、朝開暮斂、湖南北人家多種植爲二籬障一、花與レ枝兩用。〔韓愈、送二李明府赴二連州一詩〕春報槿花細、初筵木槿芳。❷きはちすの異名。〔藤野氏春の號。藤野木槿(9－32340・76)を見よ。

【木槿花】113 むくげの花。〔元中記〕君子之國、地方千里、多二木槿花一、鑿起、避暑納涼詩〕木槿花開畏二日長一、時搖二輕扇一倚二繩牀一。

【木具】114 木材で造った器具。木器。〔鹽鐵論、散不足〕夫夫士則單榎木具。

【木具膳】115 脚が高く緣の深い膳。

【木禺】116 木ばりの人形。でく。木偶に同じ。〔後漢書、劉表傳論〕劉表道不二相越一、而欲レ臥收二天運一、擬二蹤三分一、其猶二木禺之於人也一。

【木禺馬】117 木製の馬。天を祭るに用ひた。〔史記、封禪書〕以二木禺馬一、代二駒焉一、云云、行親郊用レ駒、及諸名山川用レ駒者、悉以二木禺馬一代、行過乃用レ駒。

【木禺龍】118 木製の龍。天を祭るに用ひた。木寓龍(512)を見よ。〔史記、封禪書〕木禺龍樂車一駟。〔注、集解曰、漢書音義曰、禺、寄也、寄二生龍形於木一也、索隱曰、禺、一音偶、謂偶二其形於木一也。

【木偶】119 木製の人形。でく。木像。木人。又、働きのない人をいふ。愚直の人。おろかもの。木禺。〔潘岳、弔二汝嘗君一文〕志撓二於木偶一、命懸二於狐裘一。〔言志畫錄、第當言而不言、與二木偶一奚擇。

【木偶戲】120 人形芝居。でく芝居。〔涪翁雜說、傀儡、戲〕木偶人一也。

【木偶人】121 木で造った人形。木偶。〔史記、孟嘗君傳〕孟嘗君將入二秦、賓客莫レ欲二其行一、諫不レ聽、蘇代謂曰、今旦代從二外來一、見二木偶人與土偶人一相與語上、木偶人曰、天雨、子將敗矣、土偶人曰、我生二於土一、敗則歸二土、今天雨、流子而行、未レ知二所一止息一也、今秦虎狼之國也、而君欲往、如有レ不レ得レ還、君得レ無レ爲二土偶人所一笑乎、孟嘗君乃止。

【木偶馬】122 木製の馬。木禺馬に同じ。〔海錄碎事、帝王、巡狩〕漢武帝因二巡狩一、體二其名山大川一、用駒者、悉以二木偶馬一代。

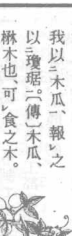
【木偶宮戲】123 mu4 ou3 kung1 hsi4 清代、宮中で行はれた人形芝居。

【木偶人衣】124 無能者の喩、木偶人は美服を著けても何等の用をしないからいふ。〔史記、任安傳〕今徒取二富人子一上之、又無二智略一、如二木偶人衣一之綺繡一耳、將奈之何。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

【木詘】125 ぶこつで節がないこと。木訥。〔史記、曹相國世家〕擇ニ郡國吏、木ニ詘於文辭一、重厚長者。

【木瓜】126 ●ぼけ。薔薇科の落葉灌木。莖は高さ六七尺、葉は互生、長楕圓形。花は紅色、又は白色、海棠に似、果實は楕圓形で酸味がある。〔詩、衛風、木瓜〕投ニ我以ニ木一、報ニ之以ニ瓊琚一。〔傳〕木瓜、楙木也、可ニ食之一木。〔爾雅、釋木〕楙、木瓜。〔注〕實如ニ小瓜一、酢可ニ食一。●詩、衛風の篇名。衛人が齊の桓公を襃めて作つた詩。〔詩、衛風、木瓜序〕木瓜、美ニ齊桓公一也、衛國有ニ狄人之敗一、蟲處ニ于漕一、齊桓公救而封ニ之一、遺ニ之車馬器服一焉、衛人思ニ之一、欲ニ厚報一之、而作ニ是詩一也。●山名。湖南省常德縣の東に在り。唐の李白、夜郎に流され此の山を經た。〔李白、望ニ木瓜山一詩〕客心自酸楚、況對ニ木瓜山一。●土司の名。貴州省定番縣の南。元置き、羅賴州軍民長官司を改めて木瓜犵狫長官司といふ。明に至つて改めて木瓜長官司を置く。正長官は石姓。副長官は顧姓。〔續史方輿紀要、貴州〕木瓜長官司、安撫司東目里元置ニ木瓜犵狫蠻夷軍民長官司一、志云、元初置ニ羅賴州一、尋改ニ木瓜等處蠻夷軍民長官司一、隸ニ葛蠻長官司一、誤也、明朝洪武五年、酋長石蓋歸附、改置ニ今司一、授ニ之、又以ニ從征官顧宸副ニ之一、屬ニ金筑安撫司一、成化中改屬ニ程番府一、隆慶中復改ニ今屬一。●國の名。柯枝國の一種をいふ。〔星槎勝覽〕何枝國男女裸體、穿ニ短衫一、又一種曰ニ木瓜一、無ニ屋舍一、穴居巢樹、捕ニ魚爲一業、男女裸體、紉ニ結樹葉一、遮ニ其前後一。●赤松弘の號。赤松太庚(10-36999‥192)を見よ。●紋所の名。窠の紋。もかう。帽額。



【木瓜園】127 堡塞の名。陝西省府谷縣の北。

【木瓜海棠】128 海棠の一種。其の果實は木瓜に似る。〔篁芳譜、海棠〕木瓜海棠、生ニ子如ニ木瓜一、可ニ食一。

【木禾】129 ●穀物の一種。粟の類。〔山海經、海內西經〕昆侖之虛、上有ニ木禾一、長五尋、大五圍。〔注〕木禾、穀類也、生ニ黑水之河一、可ニ食一、見ニ穆天子傳一。〔穆天子傳、四〕爰有ニ野麥一、爰有ニ答堇一、西膜之所謂木禾。〔注〕木禾、粟類也。●草の名。漏蘆の異名。〔廣雅、釋草〕飛廉、扁蘆、伏豬、木禾也。●縣名。〔漢書、地理志下〕上郡、縣二十三、木禾。

【木華】130 晉、廣川の人。字は玄虛。官は楊駿の主簿。文章萬麗。海賦の作者。〔文選、十二〕・〔全上古三代秦漢三國六朝文、晉文一百五〕。

【木畫】131 紫檀或は桑木を地と爲し、染色象牙・黃楊木・鹿角等を雜嵌して人物・蟲魚・鳥獸・花草の狀を作るをいふ。〔西京雜記、一〕昭陽殿木畫屏風、文如ニ蜘蛛絲縷一。

【木怪】132 怪をなす木の精。罔兩の類。〔博物志、雜說上〕水石之怪爲ニ龍罔象一、木之怪爲ニ彗罔一。

【木活】133 木活字の略。木で作つた活字。

【木官】134 古の官名。五官の一。木正(263)に同じ。〔禮、月令、孟春之月其帝大皡其神句芒、注〕句芒、少皡氏之子曰ニ重一、爲ニ木官一。

【木環】135 木をくつて造つた環。

【木環體操】136 二人で木環を二箇もちあつてする體操。

【木丸】137 聲を立てさせないために口にはませて其の端を頸にくくりおく具。さるぐつわ。〔唐書、郝象賢傳〕將ニ刑ニ人、必以ニ木丸一窒ニ口云。〔湧幢小品、刑人者、以ニ木丸一塞ニ口、始于武明空殺ニ郝象賢一。

【木丸殿】138 削らない丸木のままの材木で建てた粗末な宮殿。黑木の御所。きのまるどの。〔新古今和歌集、雜、中〕朝倉や木のまろ殿に我が居ればぞ。

【木君】139 清、潘鐸(7-18236‥69)の字。

【木契】140 ●木で作つたわりふ。〔唐書、百官志〕凡有ニ名者一、降ニ墨敕勘銅魚木契一、然後入ニ之一。〔宋史、仁宗紀、慶曆元年十月己亥、罷ニ銅符木契一。●木片にきずをつけて文字の代りにすること。〔嶺外代答〕猺人無ニ文字一、其要約以ニ木契一、投ニ牒州縣一、亦用ニ木契一。

【木桂】141 樹木の名。かつら。藥品として用ひる。〔爾雅、釋木〕梫、木桂。〔疏〕梫、一名木桂、云云、本草謂ニ之牡桂一者、是也。〔爾雅翼〕牡桂生ニ南海一、葉似ニ枇杷一、皮薄色黃、少ニ脂肉一、氣如ニ木蘭一、削ニ去皮一、名ニ桂心一、所謂官桂也。

【木經】142 書名。三卷。宋、喻皓撰。建築に關する書。〔喻皓、一に預浩に作る。〔錦田錄、一〕〕

【木雞】143 木彫のにはとり。強敵に對してもびくともしない鬪雞をいふ。〔莊子、達生〕紀渻子爲ニ王養ニ鬪雞一、十日而問、雞已乎、曰、未也、方虛憍而恃ニ氣一、十日又問、曰、未也、猶應ニ嚮景一、十日又問、曰、未也、猶疾視而盛ニ氣一、十日又問、曰、幾矣、雞雖ニ有ニ鳴者一已、無ニ變矣一、望ニ之似ニ木雞一矣、其德全矣、雞無ニ敢應者一、反走矣。〔抱朴子、應嘲、墨子〕刻ニ木雞一以厲ニ天一。〔白居易、禮部試策第三道〕勝乃俊ニ乎木雞一、巧必資ニ於瓦一、注〕

【木雞養家屋】144 清、黃金壘(12-47926‥1047)の室名。

【木雞養到】145 mu4 chi1 yang3 tao4 學問が深くて純粹な人をいふ。木雞の故事に本づく。

【木履】146 木製のはきもの。きぐつ。木履。〔後漢書、五行志〕延熹中、京都長者、皆著ニ木履一。〔東方朔瑣語〕春秋時、介之推逃ニ祿自隱一、抱ニ樹而死、文公撫ニ木哀歎、遂以爲ニ履一。

【木履登ニ山】147 無頓著なこと。晉の謝靈運が木履を履いて山に上つた故事。〔世說新語、任誕下〕謝康樂、因ニ父祖之資一、生業甚厚、奴僕既衆、義故門生數百、鑿ニ山浚一河、功役無已、尋ニ山砂鎮、必造ニ幽峻、巖嶂千里、莫不ニ遍歷一、登躡常着ニ木屐一、上ニ山則去ニ前齒一、下ニ山去ニ其後齒一。

【木戟】148 巵子の類。山中に生じ、葉は巵子に似る。〔本草、巵子〕附錄、木戟、別錄、有名未用曰、生ニ山中一、葉如ニ巵子一、味辛溫無ニ毒一、主ニ瘮癖氣在ニ臟腑一。

【木厥】149 後幅が短くて活動に便利な衣。末厥(6-14420‥46)を見よ。

【木夾】150 木製の手紙ばさみ。〔資治通鑑、唐紀〕僖宗、乾符三年、蠻遣ニ瑤還一、遺ニ木夾一、以遺ニ駢。〔注〕遺牒以ニ木夾一之、故云ニ木夾一、范成大桂海虞衡志曰、紹興元年、廣西帥司及邕ニ通ニ信問一、用ニ兩漆板一夾ニ繫文書一、到ニ字其上一、謂ニ之木夾一、按ニ宋白續通典一、諸道州府巡院傳ニ遞敕書一、皆有ニ木夾一、是中國亦用ニ木夾一也。〔事物異名錄、書籍、書夾〕丹鉛錄、宣和書譜云、章孝規嘗爲ニ路魯瞻一書ニ雲南木夾一、木夾彼方所謂木契、蠻夷之俗、古體未廢、故其往復移文、猶馳ニ木夾一。

【木見】151 播磨國の地名。

【木硯】152 木で製した硯。〔硯譜〕傅玄硯譜云、木貴ニ其能軟一、石美ニ其潤堅一、劉道友以ニ浮査一爲ニ硯、知ニ古亦有ニ木硯一。

【木遣】153 ●多人數で重い材木などを、音頭を取り掛聲をして送り遣ること。●木遣歌の略。〔重編應仁記、二十〕花を粧り木遣を歌はせ、へるために唱ふ一種の俗謠。きやり。

【木劍】155 木製の刀。きだち。木刀。〔南史、陳始興王叔陵傳〕左右取ニ朝服所ニ佩木劍一、以進。〔遼史、刑法志〕太宗時制ニ木劍一。〔雲谷雜記〕近世宮府騶從、所ニ持假劍一、以ニ木爲一之、號曰ニ木劍一。

【木原】156 樹木の生えてゐる原。木の原。〔曾丹集〕山里の梅の木原に。

【木原老谷】157 常陸の人。名は元禮。初名は雄吉。字は節夫。號は老谷。明治十六年五月二十七日歿す、年六十。藤森弘庵に師事す。官は土浦藩儒・埼玉縣師範學校長。著に老谷遺稿がある。〔墓碑銘〕。

【木戶】158 ●城の門。柵門。城戶。〔東鑑、一〕治承四年八月二十六日、引ニ籠于當所衣笠城一、各張陣、云云、西木戶和田太郎義盛。●江戶時代、非常警戒のため、市內の要所要所に設けた門。〔柳樽〕木戶々々で角をもがれて。●通路の出入口に設けた屋根のない開戶の門。●芝居・相撲其の他興行場などにある見物人の出入口。〔心中二枚繪草紙、上〕戊の顏見世朝木戶を。〔木戶口〕159 木戶の出入口。〔東鑑、三〕壽永三年、二月七日、開ニ木戶口一、相ニ戰之一。

【木戶錢】160 興行物見物に木戶に拂ふ料金。興行物の見物料。〔男色大鑑〕毎日きどせん出

し。

【木枯】161コガラシ ●木が枯れる。〔漢書、五行志〕伊陟戒以修德、而木枯。〔淮南子、人間訓〕木枯則益勁、塗乾則益輕。●コガラシ 秋季から初冬にかけて吹く風。凩。〔古今和歌六帖二〕木枯の秋の初風吹きぬるを、などか雲るに雁の聲せぬ。

【木觚】162コカク 急就篇に觚者學書之牘、或以、記事削木爲之、蓋簡屬也。孔子歎觚、卽此之謂云云、今俗猶呼小兒學三書簡爲木觚章、蓋古之遺語也。〔急就篇、一〕文字をしるす木ふだ。

【木吾】163ボクゴ 棒の名。漢代、御史・校尉・郡守・都尉・縣長等が手に持つて非常に備へたもの。〔古今注、輿服〕車輻棒也、漢朝執金吾・金吾、御史大夫・司・隸校尉亦得、執焉。御史・校尉・郡守・都尉・縣長之類、皆以木爲吾焉、用以夾車、故謂之車輻、一曰、形似輻、故謂之車輻也。

【木口】164キグチ 材木の性質。木質。

【木工】165モクコウ ●殷代、天子の六工の一。大工。たくみ。〔禮、曲禮下〕天子之六工、曰三土工・金工・石工・木工・獸工・草工。〔注〕木工、輪輿弓廬匠車梓也。●官名。工事を掌る。〔漢書、百官公卿表〕武帝太初元年、更名=東園主章=爲=木工=。●木材工藝の略稱。家具調度を造ること。

【木工允】166モクコウノジョウ 令制で木工寮の判官。こだくみのまつりごとびと。唐名は工部郎中・將作丞・木作丞。〔職原抄〕木工寮、允、唐名、工部郎中・將作丞、或木作丞。

【木工助】167モクコウノスケ 令制で木工寮の次官。こだくみのすけ。唐名は工部侍郎。〔職原抄〕木工寮、助、唐名、工部侍郎。

【木工屬】168モクコウサカン 令制で木工寮の主典。唐名は工部主事・左校史・將作主簿。〔職原抄〕木工寮、屬、唐名、工部主事、或左校史、又、將作主簿。

【木工頭】169モクコウノカミ 令制で木工寮の長官。こだくみのかみ。唐名は木作尹。又、工部尚書・將作大匠。〔職員令〕木工寮、頭一人、掌=營構木作=及採=材事=。〔職原抄〕木工寮、頭一人、唐名、木作尹、又、工部尚書・將作大匠。

【木工寮】170モクコウリョウ 古、宮内省被管の寮。宮殿の造營・修理等の工匠の事を掌る。こだくみのつかさ。こだくみ。唐名は將作監。〔職原抄〕木工寮、唐名、將作監。

【木工算師】171モクコウサンシ 令制で木工寮の下官。唐名は將作計史。〔職原抄〕木工寮、算師、唐名、將作計史。

【木公】172ボクコウ ●松の異名。松の字を分けると木公となるからいふ。〔湖海新聞〕宋神宗問=山濤=曰、卿自=山路=來、木公木母如何、濤曰、木公正傲=歲、木母正含=春=。〔夷堅志〕木公、松也、木母、梅也。●仙人東王公をいふ。〔拾遺記〕漢時童謠云、著=清裙=入=天門=、謂=金母=拜=木公=、木公、東王公也。●仙道を會得した男子をいふ。〔事物異名錄、仙道、仙號〕山堂肆考、男子得=道者名=、隸木公=、女得=道者名=、隸金母=。●山名。福建省莆田縣の西北。砂鐵鑛を產する。

【木功】173ボクコウ 材木工事。〔楊雄、羽獵賦〕土事不=飾、木功不=彫=。

【木狗】174ボクク ●くろんぼう。〔本草、木狗〕案解、時珍曰、按、熊太古冀越集云、木狗生=廣東左右江山中=、形如=黑狗=、能登=木=、其皮爲=衣褥=、能運=動血氣=。●木で造つた狗。水中に流れる木材を防ぐもの。〔海錄碎事、武、水戰〕高類討=尉遲迥=、爲=橋於沁水=、賦於=上流=、縱=大梶=、類預爲=木狗=以禦=之=。

【木侯】175モクコウ ●さる。沐猴。〔法言、重黎〕人舍=其木侯=、而謂=人木侯=。●雌の鸚鵡をいふ。〔事物異名錄、禽鳥、鸚鵡〕鐵圍山叢談、西蜀鸚鵡、初丹喙、中黑、後丹、雌名=木侯=。

【木紅】176モクコウ 染色の一種。すはうぞめ。〔天工開物、諸色質料、木紅色〕用=蘇木煎水入=明礬培子=。

【木紅毬】177モクコウキュウ 菊の一種。花は紅色。〔羣芳譜、木紅毬〕一名紅羅衫、一名紅繡毬、花初開殷紅、稍開即木紅、徑可=二寸有半=、攤下覆如=毬=、心尊黃甚、莖葉枝幹、頗類=御袍黃=、高可=五六尺=。

【木觧】178モクカイ ●草の名。せきこく。蘭科に屬する石斛に似た草で中は虛にして木の如く、長さ尺餘、深黃色で光澤あり。〔本草、石斛〕集解、弘景曰、其生=櫟木上=者名=木斛=、其莖至虛、長大而色淺、不入=丸散=、惟可=爲=酒漬=煑之用=、於方最以=補=虛療=腳膝=。●もくこく。椿科に屬する常綠喬木。しやらのき。さるなし。しや。厚皮香。●清制の斛。木で造つたます。〔清會典事例、戶部、權量〕順治五年、云云、又定、工部鑄=鐵斛=二張、二存=戶部=、一發=倉場侍郎=、再造=木斛十二張=、頒=發各省=。

【木鵠】179コク 木で作つた鵠。魏の安釐王の客、隱遊者=聞=之、作=木鵠=、以獻=王=、王目、此無用、欲=加=刑焉=、遊乃取而騎焉、遂飄然飛去、莫知所=之=。

【木骨】180モクコツ 五加の異名。〔本草、五加〕釋名、五隻、五花、文章草、白刺、追風使、木骨、金鹽、狩漆、辭師。

【木根】181モクコン ●木の根。〔楚辭、離騷〕擥=木根=、以結=茝兮=、貫=薜荔之落蕊=。〔孟郊、審交詩〕種=樹須擇=地、惡土變=木根=。●山名。綏遠省境の河套內鄂爾多斯の界。〔晉書、苻堅載記〕苻堅建元元年、云云、鄧羌討=衛辰=、擒=之於木根山=。

【木根車】182ボクコンシャ 瑞祥の一。天子の德が山陵に至れば出るといふ。山車の類。〔孝經援神契〕德至=山陵=、則山出=木根車=、澤出=神馬=、陵出=黑丹=、澤阜出=蓮蒲=。

【木婚】183モクコン 西洋で結婚後五年目を記念していふ。

【木棍】184 mu⁴ kuen⁴ 棍棒。

【木魂】185モクコン 木靈。●聲音の反響。やまびこ。

【木叉】186モクシャ 硯。●樹木の精。木精。

梵語筆記、三〕宋徽宗南幸、還至=泗州僧伽塔下=、問=主僧=曰、僧伽旁白衣持=錫杖=者何人、對曰、是名木叉、蓋僧伽行者、上曰、可賜=度牒與=披剃=。

【木紗】187 mu⁴ sha¹ 木に捲いたかたん絲。

【木柴】188モクサイ 木をくみ合せたとりで。〔漢書、匈奴傳〕或因=山巖石、木柴僵落、谿谷水門=、稍稍平=之=。

【木祭】189モクサイ 樵夫が伐木する時に行ふ山神のまつり。〔夫木和歌抄、廿一〕斧に幣帛取添へてこまつりすらし。

【木齋】190モクサイ 字號。●明、謝遷(10-35827‥153)の號。●清、戚相(9-30083‥29)の字。●清、潘江(7-18236‥11)の號。●清、李呈祥(霑化の人)(6-14459‥1767)の號。●游佐好生の號。游佐木齋(7-17792‥133)を見よ。

【木材】191モクザイ 伐採して諸種の用に供する材料の木。材木。〔周禮、地官、委人〕以=式灋=共=祭祀之薪蒸木材=。〔戰國、趙策〕使=工人爲=木材=、以接=手上=。

【木倉】192モクソウ ●清代、工部に所屬した材木倉。〔清會典事例、工部、物材〕木倉、順治初年定、專委滿司官一人監督、一年更代。●松崎復の號。松崎慊堂(6-14516‥357)を見よ。

【木曹】193モクソウ 關の名。元、置く。陝西省城固縣。明初、傅友德、夜、木曹關を襲ふ。〔漢中府志〕北木曹關在=縣西北=三十五里、接=連雲棧道=、南木曹關在=縣南=三十里、通=西鄂縣界=、今皆廢。

【木葬】194 mu⁴ tsang⁴ 棺に入れて葬むる。

【木製】195モクセイ ●木製の絃器の胴。〔魏書、烏洛侯傳〕樂有=箜篌=、木槽革面而拖=九弦=。●をけ。ため。〔隋書、流求國傳〕木槽中暴=海水=、爲=鹽=、木汁爲=酢=、釀=米麴=、爲=酒=、其味甚薄。

【木造】196モクゾウ ●木材でつくる。又、其の物。●フクリ 姓氏。〔和爾雅〕。

【木造初】197コクゾウ 大工の仕事初。又、大工の新年の仕事初。〔文なはじめ〕〔東鑑、二十九〕文暦二年正月十五日、五大尊堂門木作始也。

【木像】198モクゾウ ●木材で作つた人の似姿。木製の像。〔幽冥錄〕木像彎=弓射=之=。〔蕭長庚、太平興國宮記〕木像入=廟而流=汗、粉檯臥=地以發=光=。●心身のはたらきの無い人を罵り呼ぶ語。でくのぼう。〔源平盛衰記、二十四、南都燒失〕南大門の木像の獅子。

【木作】199 mu⁴ tsuo⁴ ●大工職人。大工業。●フクリ ④きづくり。木どり。細工向きに從つて材木を

適宜に切り削ること。〔宇治拾遺、三〕食ひ物求めて佛師に食せて、わかに地藏を木作りばかりして奉りて。㊐姓氏。〔日用重寶記、二〕

【木柵】200 木製の柵。しがらみ。〔金史、赤盞合喜傳〕列二木柵一以薪草一塡壕。〔元史、五行志〕鹽官州潮水大溢、云云、以二木柵竹落磚石一塞之不止。

【木索】201 刑具の名。木はかせ。索は、なは。桎梏・縲絏。〔司馬遷、報二任少卿一書〕其次關二木索一、被二箠楚一受辱。〔注〕銑曰、關木、杻械、索、繩也、以拘二縛之一也。

【木札】202 ●木片。こつぱ。〔酉陽雜俎、盜俠〕韋視之、乃木札也。●ヂ 木製のふだ。

【木産】203 木の上に造つた巣の類。〔後漢書、馬融傳〕木産蠶、寓鼎罩。〔注〕木産、謂二巢栖之類一也。

【木散】204 仙藥の名。〔海錄碎事、道釋、養生〕木散除疾、是爾所宜、次食二初飯一、兼穀勿違、益、醴除レ患、肌膚充肥、清靈眞人授二許玉斧一之詩。

【木子】205 ●木の實。〔北史、序傳〕高陽氏有二才子一、曰二庭堅一、堯時爲二大理一、以二官命一族爲二理氏一、其後理微以二直道一不レ容、得二罪於紂一、其妻契和氏、攜二子利貞一、逃二隱伊侯之墟一、食二木子一得全、遂改レ理爲二李氏一。● mu tzŭ 擬裝彈。

【木子兒】206 木の種。籤。

【木子總官】207 禁裏の造營の事をなす番匠の頭領。〔雍州廚志、七、土產門下、服器部〕凡從二禁裏經營之事一者、謂二木子總官一。

【木芝】208 紫芝(8－27337‥209)の異名。〔本草、芝〕集解、時珍曰、葛洪抱朴子云、芝有二石芝・木芝・肉芝・菌芝二凡數百種。〔本草、芝〕紫芝、一名木芝。〔江淹、雜體詩〕傲睨摘二木芝一、陵波采二水碧一。

【木賜】209 孔子の弟子、端木賜をいふ。字は子貢。諸葛亮を葛亮といふ類。〔舊唐書、元行沖傳〕木賜近賢、貽二嗤於武叔一。

【木次】210 姓。〔姓氏家系大辭典〕。

【木耳】211 菌の一種。きくらげ。朽木に著生し、形は人の耳に似る。〔本草、木耳〕釋名、木櫃、木菌、木蜡、樹雞、木蛾、時珍曰、木耳、生二於朽木之上一、無二枝葉一、乃濕熱餘氣所レ生。〔本草、木耳〕釋名、木櫃、木菌、木蜡、樹雞、木蛾。

【木囚】213 木で作つた囚人の人形。〔論衡、亂龍〕李子長爲二政、欲一知二囚情一、以二梧桐一爲レ人、象二囚之形一、鑿二地爲一陷、以二盧爲一榔、臥二木囚其中一、囚罪正、則木囚不レ動、囚寃侵奪、木囚動出、不レ知二囚之精神著一二木人一乎、將精神之氣動二木囚一也。

【木臭】214 酒にうつつた樽の材のにほひ。

【木棡】215 船の篙木。さを。〔廣韻〕棡、木棡、船篙木也。

【木鍬】216 金屬を用ひず、木だけで造つた鍬。

【木獸】217 ●樹木と獸。〔商子、畫策〕昔者昊英之世、不二伐レ木殺一獸、人民少而木獸多。●木製の乘もの の一種。〔隋書、流求國傳〕王乘二木獸一、令二左右輦一之。

【木穀】218 木の實を食として命を繫ぐこと。五穀以外のもの、卽ち果實等だけを食して生活すること。〔晉書、庾袞傳〕固窮安レ陋、木食山棲。〔南史、褚伯玉傳〕抗高木食有二年載一。〔宋高僧傳、智封〕候辭出二蒲津安峯山一、禁足十年、木食澗飲。

【木蝨】219 だにの異名。〔事物紺珠〕蝨類、一名蝨蛇、扁小褐色、臭而囓人、又雜俎謂二之木蝨一。

【木質】220 ●木で造つた物。きづくり。〔元史、祭祀志〕造二木質金表牌位十有六一。●イ 材木の質。㊐ヂ 本草學で、其の性質が、木によく類似したものをいふ。

【木質部】221 維管束の一部。導管部ともいふ。導管を含有し、木質纖維・木質柔組織から成つてゐる。

【木櫛】222 木で造つたくし。

【木實】223 このみ。果實。〔列子、周穆王〕其民食二草根木實一、不レ知二火食一。〔後漢書、楊由傳〕方當レ有レ薦二木實一者、其色黃赤。〔後漢書、苟爽傳〕木實屬レ天、根荄屬レ地。

【木實繁者披二其枝一】224 このみが多ければ其の枝を裂く。臣の勢が強ければ其の主君を危くする喩。〔史記、范雎傳〕木實繁者披二其枝一、披二其枝一者傷二其心一。

【木汁】225 樹木の液汁。〔隋書、流求國傳〕木槽中暴二海水一爲レ鹽、木汁爲レ醋、釀二米麴一爲レ酒、其味甚薄。

【木車】226 塗りかざりのない車。〔周禮、春官、巾車〕王之喪車五、乘二木車一、蒲蔽、大禝、尾飾疏飾、小服皆疏。〔注〕木車、不レ漆者。〔後漢書、光武帝紀〕古者帝王之葬、皆陶人瓦器木車芳馬、使二後世之人不一知二其處一。

【木者】227 清、張敔(4－9812‥202)の號。

【木匠】228 だいく。こだくみ。木工。〔論衡、量知〕能斲二削柱梁一、謂二之木匠一。〔清異錄、人事〕木匠總號二運斤之藝一、又曰二手民・手貨一。

【木匠頭】229 木匠寮の長官。木工頭。

【木匠寮】230 古、宮內省に屬し、營繕のことを掌つた役所。

【木匠帶レ枷自做得】231 大工が首架を作つて自ら首にはめられる。自業自得の喩。〔通俗編、藝術、木匠帶枷自做得〕王鈺、續雜俎、自做得、六事、一曰、木匠帶レ枷。

【木庄】232 姓氏。

【木牀】233 ●木造のゆか。〔列女傳、賢明傳〕木牀蓍席。●木製のねだい。〔南史、宋武帝紀〕木牀且費、而況石耶。

【木廠】234 材木小屋。材木ぐら。〔清會典事例、工部、物材〕順治初年定、通州張灣二處、各設二木廠一。

【木廠子】235 mu⁴ ch'ang² tzŭ 材木置場。又、材木屋をいふ。

【木勺】236 mu⁴ shao² 木製の杓子。

【木尺】237 ●尺度の一種。營造尺から出で、木材・建築・測量に用ひる。其の一尺は我が曲尺の一尺五分六厘に當る。又、官尺ともいふ。〔明會典、斛斗秤尺〕工部各給二鐵斛一張、銅尺・木尺各一把一。● mu⁴ ch'ih² 物指。定規。

【木杓】238 ひしやく。〔茶經〕瓢、一曰二犧杓一、犧、木杓也。

【木斫】239 農具の一。土塊をくだき、土をならすに用ひる。〔農政全書、種圖考〕謂二木斫一、卽此欅也。

【木主】240 みたましろ。神主。位牌。栗木を用ひて作るからいふ。〔史記、周紀〕爲二文王木主一、載以車爲二中軍一。〔史記、伯夷傳〕武王載二木主一、號爲二文王一、東伐レ紂。〔朱子語類〕伊川木主制度、其刻刻開レ竅處、皆有二陰陽之數一、存焉、信乎其有二制一、禮作レ樂之具一也。〔事物紀原、禮祭郊祀部、木主〕典禮曰、措二之廟一、立二之主一、曰二帝、檀弓曰、商主綴重、蓋廟所二以藏一主、宜始爲レ廟卽立二主也一。〔海錄碎事、帝王、宗廟〕五經要義、木主諸侯長尺、皆刻二諡於其背一。

【木守】241 庭園などの樹木の番人。〔庭訓往來、十月〕山守、木守、門守。

【木取】242 用材の見つもり。

【木種】243 このみ。木の種。〔古事記、神代紀上〕須レ噉八十木種、皆能播生。

【木銃】244 木で銃の形に造つた物。木製の銃。〔和漢三才圖會、兵器、天墜砲〕按天墜砲有二數品一、名亦多矣、云云、以二木銃一放出者、其玉徑一尺三寸二分四厘、殆鉛子當百貫目之重一者。

【木叔】245 ●胡椒の異名。〔清異錄、藥、藥譜〕木叔、胡椒。●字號。㋑宋、王柟(永嘉の人)(7－20823‥773)の字。㋺明、陳函輝(11－41698‥708)の字。

【木盾】246 木製のたて。〔墨子、公孟〕金劍木盾。

【木杵】247 木のきね。〔漢書、陳萬年傳〕爲二地白木杵一、舂不レ中程。

【木處】248 樹上にすむ。木棲。〔莊子、齊物論〕民濕寢則腰疾偏死、鰌然乎哉、木處則惴慄恂懼、猨猴然乎哉。

【木處而顛、土處而病】249 人間が鳥のやうに木上に樓めば風雨にあつて顛覆し、獸のやうに土穴の中に住めば濕氣に冒されて病にかかる。〔韓愈、原道〕木處而顛、土處而病也、然後爲二之宮室一。

【木茹】250 木の實をたべる。〔後漢書、崔駰傳〕或草耕而僅飽、或木茹而長飢。〔注〕說苑曰、鮑焦衣二木皮一、食二木實一。

【木埘】251 木耳の異名。きくらげ。〔本草、木耳〕釋名、木櫃、木菌、木埘、樹雞、木蛾。

【木鐘】252 木で造ったかね。〔通俗編、器用、木鐘〕漢書百官志、將作大匠屬官有三主章、師古曰、今所謂木鐘者、蓋章音之轉耳、按、是唐有三木鐘之官、今以假借官事、欺人曰撞三木鐘、或者因レ此。

【木植】253 材木をいふ。〔宋史、吐蕃傳〕占三據木植、傷三殺軍人一。

【木稷】254 高粱をいふ。〔廣雅、釋草〕蜀粱、木稷也。〔疏證〕今之高粱、古之稷也、秦漢以來、誤以粱爲稷、而高粱遂別名二木稷一矣。

【木神】255 ●五行の木の神。〔山海經、海外東經、東方勾芒鳥身人面乘二兩龍一、注〕木神也、方面素服。〔兼明書、五行神〕木神曰二勾芒一、火神曰二祝融一、土神曰二后土一、金神曰二蓐收一、水神曰二玄冥一。●樹木の精。こだま。〔刑邵、新宮賦〕木神水怪、海若山祇、千變萬化、殊形異レ宜。

【木晨】256 星の名。木星をいふ。〔漢書、律歷志下〕木晨始見。

【木人】257 ●木制の人形。でく。人形。木偶。〔戰國燕策〕宋王無道、爲二木人一以寫二寡人一射二其面一、寡人地絶兵遠、不レ能二攻也一。〔史記、韓秦傳〕宋王無道、爲二木人一以寫二寡人一。〔魏志、杜夔傳、注〕馬鈞巧思絶世、云云、以二大木一彫構、設二爲歌樂舞象一、至レ今二木人擊一鼓吹一簫。●愚直の人。おろかもの。〔史記、灌夫傳、且帝寧能爲二石人一邪、注〕正義曰、今俗云、人不レ辨レ事、罵云二杌杌若二木人一也。〔晉書、夏統傳〕此吳兒、木人石心也。〔通俗編、品目、木人〕按、論語云、木訥、漢書地理志云、天水隴西敦郡民俗質木、皆謂二其性之朴一、而此直以二木偶一喻レ之、今流俗所二詆爲一木者、大率本レ此。

【木人戲】258 mu⁴ jen² hsi⁴ 操人形。

【木人石心】259 木のからだで石の心。感情の無い人をいふ。〔晉書、夏統傳〕此吳兒、是木人石心也。

【木津】260 ○、姓氏。〔明治新撰姓氏錄〕。

【木椹】261 ●芝の異名。〔事物異名錄、百草、芝〕爾雅翼、芝、木椹。●木のまと。〔周禮、考工記、弓人、利二射一革與レ質、注〕質、木椹。

【木燒】262 木の火きり。鑽火木。〔禮、內則〕右佩二玦・捍・管・遰・大觿・木燧一。〔注〕木燧、鑽火也。〔疏〕皇氏云、晴則以二金燧一取二火於日一、陰則以二木燧一鑽レ火也。〔白虎通、號〕鑽二木燧一取二火教一民。

【木正】263 古の官名。春官の別稱。〔左氏、昭、二十九〕木正曰二句芒一。〔漢書、百官公卿表、自二顓頊一以來爲二民師一而命以二民事一、注〕應劭曰、顓頊氏不レ能紀レ遠、始以二職事一命レ官、春官爲二木正一、夏官爲二火正一、秋官爲二金正一、冬官爲二水正一、中官爲二土正一。〔孔子家語、五帝〕康子曰、吾聞勾芒爲二木正一、祝融爲二火正一、蓐收爲二金正一、玄冥爲二水正一、后土爲二土正一、此五行之主而不レ亂、稱曰二帝者何也一、孔子曰、凡五正者五行之官名、五行佐二成上帝一而稱二五帝一。

【木星】264 星の名。太陽系中、第五番目に位し、火星の外、土星の內にある最大遊星。約十二年で太陽の周圍を一週する。歲星。Jupiter〔史記、天官書〕木星與二土合一、爲二內亂饑一、主勿二用戰敗一。〔金史、宣宗紀〕興定元年八月、木星晝見二於昴一、六十有七日乃伏。

【木晒】265 木になったままで澁味のない柿。木酢。きさがき。

【木犀】266 樹木の名。木犀科に屬す。桂の一種。花に香氣あり。異名は九里香。桂花。〔本草、菌桂、集解、時珍曰、叢生巖嶺間、謂二之巖桂一、俗呼爲二木犀一〕〔鄧肅、木犀詩、清風一日來二天闕一、世上龍涎不レ敢香一。〔楊萬里、凝露堂木犀詩、身在二廣寒香世界一、覺來簾外木犀風。〕

【木犀市】267 mu⁴ hsi¹ shih⁴ 木犀が咲いた後、秋に入つて老若の悠遊すること。蘇州地方の風習。

【木犀蒸】268 mu⁴ hsi¹ cheng¹ 木犀の咲く時候は數月間蒸し暖いことをいふ。蘇州地方の語。

【木樓】269 木の上にすむ。木處。〔張衡、西京賦〕草伏木棲、寓居穴託。

【木聖】270 木細工の巧な者。〔抱朴子〕善刻削之巧者、則謂二之木聖一、故張衡馬鈞、於二今有二木聖之名一焉。

【木精】271 ●木の精靈。〔後漢書、襄楷傳〕歲爲二木精一、好二生惡一レ殺。〔述異記〕千年木精爲二青牛一。●麒麟の異名。〔春秋孔演圖〕麟、木精、生水故曰陰、木氣好二土、土黃水青、故麟色青黃。●④メチールアルコールをいふ。甲醇に同じ。回 木靈(493)に同じ。

【木製】272 木を材料としてつくる。又、其物。

【木樨】273 樹木の名。もくせい。木犀(266)に同じ。〔紅樓夢、二十八回〕便乾了酒、拏二起一朶木樨一來。

【木樨湯】274 mu⁴ hsi¹ t'ang¹ 豚肉・雉肾・筍・蝦・木耳などを鷄卵と共に煑た汁。

【木樨飯】275 mu⁴ hsi¹ fan⁴ 飯の中に雞卵をかきまぜ、油で煎つた食品。

【木聲】276 木を擊つ音。〔莊子、山木〕木聲與二人聲一、犂然有レ當於人之心。

【木稅】277 木材に附加する稅。〔清會典事例、工部、關稅〕殺虎口稅銀七千二百兩、歸化城落地木稅四百四十六兩。

【木鞘】278 木で作つたさや。〔觀世音寺資財帳〕小刀拾肆柄、云云、竝木鞘。

【木鞘卷】279 柄・鞘共に木地のままで塗つてない鞘卷。〔太平記、三十五、青砥左衞門〕出仕の時は、木鞘卷の刀を差し。

【木樵】280 ●木製の物見やぐら。〔漢書、趙充國傳〕部曲相保、爲二壍壘木樵一、校聯不レ絶。〔注〕師古曰、樵與二譙同一、謂二爲高樓一以望二敵也一。●山で木をきること。又、それを業とするもの。

【木石】281 ●木と石。〔孟子、盡心上〕舜之居二深山之中一、與二木石一居、與二鹿豕一遊。〔莊子、則陽〕比二於大澤百材皆度一、觀二乎大山木石同壇一。〔晏子、問、上〕惑者狂者、木石之樸也。〔孫子、兵勢〕故能擇レ人而任レ勢、任レ勢者、其戰レ人也、如二轉二木石一、木石之性、安則靜、危則動、方則止、圓則行。〔顏延之、還至二梁城一作詩〕木石扇二幽蘭一、黍苗延二高墳一。●山をいふ。木石之怪を見よ。●木や石のやうな心のないもの。非情のもの。感覺のないもの。無生物。〔司馬遷、報二任安一書〕身非二木石一、獨與二法吏一、爲二伍一。〔嵇康、養生論〕夫以二叢爾之體一、攻二之者非一二塗一、易レ竭之身而內外受レ敵、身非二木石一、其久乎。〔阮籍、大人先生傳〕人不レ可二與爲一儔、不レ若二與二木石一爲一鄰。〔宋書、吳喜傳〕人非二木石一、何能不レ感。

【木石港】282 鐵の名。湖北省陽新縣の東南の西湖水の西漢。

【木石峽】283 山名。察哈爾省多倫縣の東北。土名は克西克騰山。又、克忒克剌に作る。

【木石子】284 明、王獻(7－20823‥361)の號。

【木石爲徒】285 世に求める心なく、僻地にわびすまひすること。〔唐書、柳宗元傳〕用是更樂寂默、與二木石一爲レ徒、不二復致意一。

【木石山人】286 清、鐵舟(11－40945‥17)の號。

【木石之怪】287 山の怪物。〔史記、孔子世家〕仲尼曰、以二丘所聞一、羊也、丘聞之、木石之怪、夔罔閬、水之怪、龍罔象、土之怪、墳羊。〔注〕集解曰、韋昭曰、木石謂二山也一、或云、夔一足、越人謂二之山繰一也、或言、獨足、魍魎山精、好學人聲一而迷二惑人一也。〔孔子家語、辨物〕孔子曰、丘之所聞者羊也、丘聞之、木石之怪、夔蝄蜽、水之怪、龍罔象、土之怪、羵羊也。

【木石心腸】288 非情の心。情誼に乏しい人。

【木石園詩話】289 書名。一卷。久保善教撰。〔日本詩話叢書、第七冊〕

【木積】290 木屑のこぎりくづ。おがくづ。

【木屑】291 のこぎりくづ。おがくづ。〔晉書、陶侃傳〕于レ是以二木屑一布レ地。〔五代史、張全義傳〕啖二木屑一以爲レ食、死有二朝夕一。

【木屑竹頭】292 木くづと竹のきりはし。〔晉書、陶侃傳〕荊州刺史時造レ船、木屑及竹頭、悉令二舉掌一之。

【木舌】293 ●木製の鈴の舌。木鐸。〔書、胤征、遒人以二木鐸一徇二于路一、傳〕遒人、宣令之官、木鐸、金鈴木舌、所二以振一文教一。●物を言はないだまる。〔後漢書、黃瓊傳〕忠臣懼レ死而杜レ口、萬夫怖レ禍而木舌。

【木川】294 宋、李杞(平江の人)(6－14459‥17)の號。

【木仙】295 魯般が木で作つた仙人。〔西陽雜俎、續集、貶誤〕今人每親二棟宇巧麗一、必強謂二魯般奇工一也、至二兩都寺中一、亦往往託爲二魯般所造一、

其不ル稽ル古如ル此、據ニ朝野僉載一云、魯般者、肅州燉煌人、莫ル詳ニ年代一、巧侔ニ造化一、於ニ涼州一造ニ浮圖一、作ニ木鳶一、每擊ニ楔二下一、乘ル之以歸、無ル何其妻有ル姙、父母詰ル之、妻具ル說ニ其故一、父後伺ル鳶、擊ニ楔十餘下一、乘ル之遂至ル吳、會吳人以爲ル妖、遂殺ル之、般又爲ニ木鳶一、乘ル之遂獲ニ父屍一、怨ニ吳人殺一其父、於ニ肅州城南一作ニ一木仙人一、舉ニ手指ニ東南吳地一、大旱三年、卜曰、般所ル爲也、齎ニ物具ニ千數一、謝ル之、般爲斷ニ二手一、其日吳中大雨、國初土人尚祈ニ禱其木仙一、六國時、公輸般亦爲ニ木鳶一、以窺ニ宋城一。

【木仙人】296 センニン 木像。〔西陽雜俎續集、貶誤〕作ニ一木仙人一、舉ニ手指ニ東南一。

【木栓】297 セン こるく栓。

【木栓櫧】297 セン 樹木の名。こるくがし。こるくのき。樹皮から木栓を採る。

【木牋】298 セン 文字を書く木ふだ。〔清異錄、器具、篆方士〕王丞相溥遇ル政閒居、四方書牘答報、皆手筆、然不ル過ニ百字一、勃ニ於紙割封蠟一、造ニ赤漆小版一書ニ其上一、僕吏見ル輒割去、雖ニ一時閒一可ル發ニ數十一、公目爲ニ木牋一、傳加ニ頰拒安抽面一、以啓閉、字濕則能護ル之、故又有ニ漆方士漆雕開之名一、公薨、無ル效ル頻卑者、惜哉。

【木錢】299 セン ●旅人が自ら米を携へ、旅人宿には之を炊ぐ薪炭料だけを拂つて泊ること。きちん。●木錢宿にとまる。

【木錢宿】300 ヤド 木錢を取つて客をとまらせる下等の宿屋。

【木鷹】301 モク 木の板で作つた楯の類。〔漢書、龜錯傳〕材官騶發、矢道同ル的、則匈奴之革笥木鷹、弗ル能ル支也。〔注〕師古曰、木鷹、以ニ木板一作、如ル楯。

【木鑑】302 セン 木製のくじ。〔福惠全書、保甲部、調集〕宜ニ預置ニ竪貫木鑑一。

【木漸】303 ゼン 木が生長する。又、木が生長するやうに進む。〔易、漸〕象曰、山上有ル木漸。〔疏〕山上有ル木漸者、木生ニ山上一、因ル山而高、非ル是、從ル下忽高、故是漸義也。〔法言、學行〕請ニ問木漸一、曰、止ニ於下一而漸ニ於上一者、其木也哉、亦猶ル水而已。

【木梳】304 ソク くし。櫛。きぐし。〔矣。

【木酥】305 ソ 酥、su パルプ。

【木鼠】306 ソ 栗鼠の異名。りす。

【木曾】307 ソ ●信濃國の地名。●姓氏。

【木曾殿】308 ソドノ 木曾義仲をいふ。源義仲。〔平家物語、七、木曾の願書の事〕木曾殿宣ひけるは。

【木曾路】309 ソヂ 中山道の一部。信濃國鹽尻から美濃國中津河に至るまでの街道。奇勝多し。

【木曾冠者】310 カムノジャ 源義仲をいふ。木曾殿。〔平家物語、七、北國下向の事〕木曾冠者義仲。

【木葱】311 ソウ 野菜の名。漢葱の異名。なつねぎ。〔本草、葱〕集解、時珍曰、漢葱、一名木葱、其莖粗硬、故有ニ木名一。

【木增】312 ゾウ 明の雲南麗土司。字は生白。土知府を世襲す。征蠻に助餉せる功により、左布政使に進められる。年三十にして職を謝す。天啓中、特に誥命して其の忠を旌された。讀書を好み、多く文士と往還す。著に雲蓮淡墨がある。〔萬斯同明史、四百十一〕。

【木粟】313 ゾク 草の名。木粟、光風草、時珍曰、苜蓿、〔本草、苜蓿〕釋名、木粟、光風草、時珍曰、苜蓿、又羅願爾雅翼作ニ木粟一、言ニ其米可ル炊ル飯也一、云云、金光明經謂ニ之塞鼻力迦一。

【木賊】314 ゾク 草の名。とくさ。山野に自生する常綠草本。莖は一根から叢生し、中空、高さ一二尺、觀賞用にも栽培せられる。莖は乾して、物をすりみがくに用ひる。〔本草、木賊〕集解、禹錫曰、木賊出ニ秦隴花成諸郡近ニ水地一、苗長尺許、叢生、每根一幹、無ニ花葉一、寸寸有ル節色青、凌ル冬不ル彫、四月采ル之。

【木刀】315 ボク 木で作つた刀。木劍。木太刀。〔通俗編、器用、木刀〕隋書禮志、佩刀之刃、以ニ木代ル之一、名ニ象劍一、又名ニ容刀一、唐書地理志、定州新樂縣有ニ木刀溝一、有ニ民木刀一、居ニ溝旁一、因名ル之一、按、俗謡ニ人遲鈍一、曰ニ木刀一、而古人有ニ以爲ル名者一矣。〔日本外史、源氏前記、平氏〕主殿司進ニ刀、木刀塗ニ銀也。

【木刀溝】316 コウボク 川の名。源は河北省新樂縣の境の閔鎭村。無極に入る。〔唐書、地理志〕定州新樂縣有ニ木刀溝一、有ニ民木刀一、居ニ溝旁一、因名ル之。〔元和志〕溝旁人姓木名刀、因名。

【木桃】317 ボウ ●櫨子の異名。くさぼけ。〔詩、衞風、木瓜〕投ル我以ニ木桃一、報ル之以ニ瓊瑤一。〔本草、櫨子〕釋名、木桃、和圓子、時珍曰、木瓜酸香而性脆、木桃酢蠟而多渣、故謂ニ之櫨一。木瓜酸香而性脆、木桃酢蠟而多渣、故謂ニ之櫨一。〔剪燈餘話、田洙遇薛濤聯句記〕美人曰、政所謂木桃瓊玖、敢望ル報乎。●大きい桃。〔述異記〕桃之大者、名ニ木桃一。

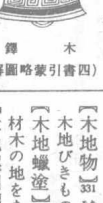
【木棠】318 ボウ 果樹の名。梨に似る。〔述異記〕今宜都有ニ吳王射亭木棠死一、木棠果名、似ル梨而甜。

【木椿】319 mu chuang くひ。杙。

【木錫】320 ボク けんぼなし。〔本草、枳椇〕釋名、蜜棲樔、蜜屈律、木蜜、木錫、木珊瑚、雞距子、雞爪子、木名ニ白石木一、金鈎木、栟栱、交加枝。

【木托】321 ボク 山名。四川省西昌縣の東。

【木鐸】322 ボク ●舌を木で造つた金屬の鈴。文事に關する政教を人民に觸れ示す時に振り鳴らす。金口木舌の鈴。〔書、胤征〕每歲孟春、遒人以ニ木鐸一徇ニ于路一。〔傳〕木鐸、金鈴木舌、所以振ニ文教一。〔周禮、天官、小宰〕觀ニ治象之灋一、徇以ニ木鐸一。〔注〕木鐸、木舌也、文事奮ニ木鐸一、武事奮ニ金鐸一。〔禮、檀弓下〕執ニ木鐸一以命ニ于宮一。〔禮、月令〕奮ニ木鐸一、以令ニ兆民一。〔禮、明堂位〕振ニ木鐸於朝一、天子之政也。〔日知錄、經義、木鐸〕金鐸所ル以令ニ軍中一、木鐸所ル以令ニ國中一、此先王仁義之用也、一器之微而剛柔別焉、其可ル以識ニ治民之道一也歟。●轉じて、文教を施す人。世の指導者。〔論語、八佾〕天下之無ル道也久矣、天將ル以ニ夫子一爲ル木鐸一。〔注〕木鐸、金口木舌、施ニ政教一、時、所ニ振以警衆者一也、或曰、木鐸所ル以徇ニ于道路一、言、天使ル夫子失ル位周ニ流四方一、以行ニ其教一、如ル木鐸之徇ニ于道路一也。



鐸 木

（解圖略蒙引書四）

【木獺】323 モク 木で作つた獺。魚を捉へる具。〔朝野僉載〕王庭刻ル木爲ニ獺一、沈ニ於水中一取ル魚、引ル首而出、蓋獺口中安ル餌爲ニ轉關一、以ル石鍋之則沈、魚取ニ其餌一、關卽發、口合則銜ル魚、石發則魚浮出矣。

【木榻】324 タウ 木で造つた腰かけ。木造の臺。〔周砥、詩〕木榻留ル燈話ニ夜分一。

【木丹】325 タン 樹木の名。梔子(6－14846‥1)の異名。くちなし。梔丹。山梔。〔本草、巵子〕釋名、木丹、越桃、鮮支、花名ニ蒼蔔一。

【木炭】326 タン ●木材を蒸し燒いて造つた燃料。すみ。〔宋史、食貨志〕盡取ニ木炭銅鉛本錢及官吏闕額衣糧水脚之屬一、湊ニ爲年計一。●繪の下畫を描くに用ひる細かく柔かいすみ。やきふで。〔論語瑣言〕用ル力以ニ木炭一畫ニ圈、隨ル圈點ル之。

【木炭畫】327 タンガ 木炭で描く素描畫。

【木晒】(265)に同じ。

【木淡】328 キヨ 清、揭恂(5－12389‥27)の字。

【木男】329 ダン 清、揭恂(5－12389‥27)の字。

【木地】330 チ ●材木のもくめ。●もくめをあらはし、漆をかけた塗方。●少しも人工を加へない ありのまま。

【木地物】331 モノ 少しも人工を加へない物。又、木地のもの。

【木地蠟塗】332 ロウ 平塗漆器の一。欅・栗等の材木の地をあらはして塗る。

【木地螺鈿劍】333 ケン 唐末の鞘に螺鈿を施した太刀。公卿は行幸・列見・定考の日に、殿上人は節會の時に用ひる。〔名目抄、下〕木地螺鈿劍、尋常之行幸及無ニ止事一、時用ル之。

【木杖】334 ヅエ つゑ。ぼう。〔論衡、吉驗〕不ル見ル人、有ニ一木杖植ニ其門側一。

【木杭】335 ボク 木のまくら。きまくら。〔唐書、卓行、陽城傳〕常以ニ木枕布衾一質ル錢。

【木椎】336 ツイ さいづち。才槌。〔農政全書、優圖、考〕今田家所ル制無ニ齒、杷首如ニ木椎一。

【木槌】337 ツイ 木で作つた槌。鐵槌(11－40945‥264)の對。

【木砧】338 まないた。〔和漢三才圖會、庖厨具、木砧〕木砧、魚板也、官女呼ル魚曰ニ末奈一、倭名抄云、俎以爲ニ厨膳具一者、不ル然也、俎祭器、卽論語序所謂陳ニ俎豆一也、蓋形相似而用異。

【木陳】339 チン 清、道忞(11－39010‥395)の字。

【木賃】340 チン 宿泊人が自ら米を炊いて飯をとと

のへ、宿には只薪炭の料だけを仕拂つて宿ること。木錢。

【木賃宿】341 食料は自身持參し、それを薪焚きする薪代即ち木賃だけを拂ふ安宿。木錢宿。〔柳樽拾遺〕木賃宿常闇の夜とはやなりぬ。

【木通】342 草の名。ほざきあけび。あけび科に屬す。蔓生灌木で、山野に自生す。葉は掌狀で複葉、花は淡紫色、實は長橢圓形。〔本草、通草〕釋名、木通、附支、丁翁、萬年藤、子名=燕覆=、時珍曰、有=細細孔=、兩頭皆通、故名=通草=、卽今所謂木通也、今之通草、乃古之通脫木也。

【木底】343 城の名。滿洲遼寧省興京縣の界。晉の咸康八年、慕容皝がこの城に入り、進んで高句麗に克つ。〔讀史方輿紀要、山東、遼東都指揮使司、金州衛〕木底城、在=衛東=、胡氏曰、此高麗之南道也、晉咸康八年、慕容皝擊=高句麗=、高句麗有=二道=、其北道平闊、南道險狹、慕容翰曰、彼以=常情=料=之=、必謂=大軍從=北道=、當=重=北而輕=南=、今以=銳兵=從=南道=襲=之=、出=其不意=、九都不=足取也=、別遣=偏師=從=北道=、縱有=蹉跌=、其腹心已潰、四支無=能爲=矣、皝從=之=、遂克=高句麗=、蓋從=北豐=而進者爲=北道=、從=南狹=入=木底城=、而進者卽南道也、義熙初、後燕慕容熙、攻=高麗木底城=不克、唐乾封二年、高麗襲=新城=、薛仁貴敗=之=、進擊=高句麗=、兵=於金山=、遂拔=其南蘇木底倉巖諸城=、尋置=木底州=於此=、後廢、倉巖木高麗二城名、唐置=倉巖州=、亦在=衛境=。

【木梃】344 まるた。あらき。〔說文〕材、木梃也。

【木彫】345 木材で作つた彫刻。又、其の技法。

【木鳥】346 ●木製の鳥。〔宋志、輿服志〕竿杪刻=木爲=鳥=。●中古の官名。春宮の舍人で衞門の尉を兼ぬ。

【木蔦】347 五加科の常綠灌木。觀賞用として栽培する。葉は互生で深綠色、花は小形で黃綠色。

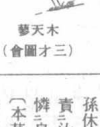
【木雕】348 木製で飛行の出來る仕かけの機械。〔後漢書、張衡傳〕參輪可=使=自轉=、木雕猶能獨飛=。〔注〕聞者言、衡作=三輪木雕=、尙能飛轉已。

【木雕泥塑】349 mu⁴ tiao¹ ni² su⁴ 木偶。土偶。でくのぼう。

【木天】350 ●學士の居所。祕閣の異名。〔夢溪筆談、雜誌一〕內諸司金屋、唯祕閣最宏壯、閣下穹隆高敞、相傳謂=之木天=。●天にとどく木。高層な建物をいふ。〔孫公談圃〕丁晉公監造=玉淸=、以=其餘材=建=五岳觀=、世猶謂=之木天=、則玉淸之宏壯可知。●天棚の類。天棚〈3－5833‥126〉を見よ。〔金樓子、雜記上〕廬陵威王之蓍、內也、千門相似、萬戶如一、齋前悉施=木天=、以蔽=光景=、春花秋月之時、暗如=深夜撤=燭=。

【木天署】351 學士の居るところ。翰林院をいふ。〔故事成語考、宮室〕木天署、學士所居。〔注〕祕書閣下穹隆高敞、謂=之木天=。

【木天蓼】352 またびたび。なつうめ。なつつばき。山地に自生する落葉灌木。莖は蔓生で木質、葉は互生で橢圓形、花は五瓣白色で下向。〔本草、木天蓼〕釋名、時珍曰、其樹高、而味辛如=蓼=、故名、又馬蓼亦名=天蓼=、而物異、集解、恭曰、木天蓼所在皆有、生=山谷中=。



蓼天木
（會圖オ三）

【木兎】353 ●木で造つた兎。遼の俗、三月三日、木を刻んで兎を作り、組を分けて馬を走らせ、之を射る。先に中つたものを勝とし、負けた組は下馬し、列跪して酒を進め、勝つた組は馬上でこれを飲む。此の日を陶里樺といふ。陶里は兎、樺は射る義。〔遼史、禮志〕三月三日爲=上巳=、國俗刻=木爲=兎、分=朋走=馬射=之、先中者勝、負朋下=馬列跪進=酒、勝朋馬上飲=之=、國語謂=是日=爲=陶里樺=、陶里、兎也、樺、射也。●つく。今のはづく。〔爾雅、釋鳥、注〕老鴞、注〕木兎也、似=鴟鴞=而小、兎頭有=毛、毛腳、夜飛、好食=蠶=。〔酉陽雜俎續集、支動〕北海有=木兎=、類=鵃鶻=。

【木圖】354 木に地形を刻んだ圖。木製地圖の模型。〔夢溪筆談、雜誌二〕予奉=使按=邊、始爲=木圖=、寫=其山川道路=、其初偏覆=山川=、旋以=鈄糊木屑=寫=其形勢=、於木案上=、未=幾寒凍=、木屑不可=爲、又鎔=蠟爲=之=、皆欲=其輕易=、齎故也=、至=官所=、則以=木刻=上=之=、上召=輔臣=同觀=、乃詔=邊州=、皆爲=木圖=、藏=於內府=。

【木鵜】355 みみづく。木兎の●に同じ。〔字彙補〕木鵜、鳥有=毛角=也。

【木蠹】356 きくひ蟲。〔本草、木蠹蟲〕釋名、蝎、蝎蝎、蛣蛙、蛙蟲、時珍曰、蠹古文作=蠹=、食=木蟲=也。

【木奴】357 ●みかんの異名。柑橘の別名。橘奴〔本草、柑〕釋名、木奴、時珍曰、漢李衡種=柑于武陵洲上=、號爲=木奴=焉。〔水經、沅水注〕龍陽縣之北洲長二十里、吳丹陽太守李衡植=柑于其上=、臨=死、勅=其子=曰、吾州里有=木奴千頭=、不=責=衣食=、歲絹千疋、吳末、衡柑成、歲絹千疋=〔吳志、孫休傳注〕襄陽記曰、吾州里有=千頭木奴=、不=責=汝衣食=。〔柳宗元、種=柑樹=詩〕方同=楚客=、憐=皇樹=、不=學=荆州利=木奴=。●柯樹の異名。〔本草、柯、樹〕釋名、集解、木奴、珣曰、按廣志云、生=廣南山谷=、波斯家用=木爲=船舫=者也=。●果實の通稱。〔齊民要術、種=杏=、注〕木奴千、無=凶年=、蓋言=果實可=以市=易五穀=也=。

【木奴花】358 橘の花。嚴維、送=崔峒使=往睦州=詩=、木奴花映桐廬縣、青蚓舟隨白鷺濤。

【木豆】359 禮器の一種。木製のたかつき。〔爾雅、釋器〕木豆謂=之豆=、竹豆謂=之籩=。

【木桶】360 をけ。桶。〔避暑錄話〕浙東人率以=陂塘=養=魚、云云、以=木桶=置=水中=、細切=草爲=食、如=食=蠶、謂=之魚苗=。

【木凳】361 木製の腰掛。〔宣和遺事後集〕其夜無=林席可=寢、但有=木凳=一條、而已。

【木橙】362 木造の腰掛。〔冷齋夜話〕東坡屬對、公嘗杖而至、指=西木橙=、自坐=其上=。

【木頭】363 ●尺度の標準の一。人の頭の長さを尺度としたからいふ。〔周禮、考工記、車人、半矩謂=之宣=、注〕半矩、尺=三寸三分寸之一=、人頭之長也、柯欄之木頭取名焉。●頭腦の敏活でない者をそしる語。でく。〔寒山詩、世有一等流、悠悠似=木頭=、出語無=知解=、云我百不=憂=。〔紅樓夢、三十五回〕備姨媽可=憐=、憐=見=的不=大說話=、和=木頭=似的。●mu⁴ t'ou 木、木材。

【木頭人兒】364 mu⁴ t'ou jen² êrh 愚鈍の人をいふ。木偶。

【木酮】365 化學名詞。アセトン、CH_3COCH_3 丙酮〈1－35‥26〉を見よ。

【木德】366 木の德。王者の德を五行に象つたものの一。五德を見よ。〔孔安國、尙書序、古者伏羲氏之王=天下=也、注〕一號=包羲氏=、三王之最先、風姓、母曰=華胥=、以=木德=王、卽太皞也。〔史記、封禪書〕夏得=木德=、青龍止=於郊=、草木暢茂。〔曹植、庖犧贊〕木德風姓、八卦創焉。〔拾遺記〕燮=混沌之質=、文=宓其教=、故曰=宓犧=、布=至德於天下=、元元之類、莫=不=尊焉=、以=木德=稱=王=、故曰=春皇=。

【木漬】367 鎭の名。江蘇省吳縣の西南。〔姑蘇志〕木漬司、管=木漬=、橫塘=、新郭三鎭=。

【木牘】368 文字を書くに用ひる木のふだ。竹簡と同じく用ひらる。〔書林淸話、書之稱、葉〕牒則木牘一版之稱。

【木訥】369 ●質樸で口才がない。かざりけがない。木は容貌の質樸、訥は言語の拙く遲鈍なこと。木訥。〔論語、子路〕子曰、剛毅木訥近=仁=。〔集注〕程子曰、木者質樸、訥者遲鈍、四者質之近=乎仁=者也=。〔後漢書、韋彪傳〕深思=絳侯木訥之功=也=。〔晉書、葛洪傳〕洪爲=人木納=、不=好=榮利=。●宋、趙鵬飛〈10－37171‥893〉の號。

【木訥老人】370 文具の一種。界尺。直線を畫くに用ひる。〔事物紺珠〕界尺曰=黎司直=、又曰=木訥老人=。

【木遁】371 ●亂の由つて生ずる五つの放逸の一つ。五遁〈1－257‥902〉の●を見よ。●仙人五遁の一。木によつて遁れること。五遁〈1－257‥902〉の●を見よ。

【木難】372 莫難〈9－31078‥63〉に同じ。●寶珠の名。木難珠に同じ。〔曹植、美女篇〕明珠交=玉體=、珊瑚閒=木難=。〔南越志〕木難、金翅鳥沫所成、碧色珠也、大秦國珍之。●扇の名。〔鄴中記〕扇之奇巧者、名=木難=。

【木難珠】373 寶石の名。〔本草、寶石〕集解、時珍曰、紅者名=剌子=、碧者名=綠子=、翠者名=馬價珠=、黃者名=木難珠=、紫者名=蠟子=。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

【木把】374 mu⁴ pa³ そまびと。杣人。材木を伐り出すを業とするもの。

【木杷】375 ハヒ 農具の一。長い柄を附け、頭に粗い歯をつける。こまざらひ。竹杷。

【木波】376 ハヒ 城の名。甘肅省環縣の西。唐の朔方都虞候楊朝晟、築く。(讀史方輿紀要、陝西、慶陽府、環縣)木波城、縣南四十五里、唐爲二木波堡一、貞元九年、楊朝晟爲二寧州刺史一、詔城二鹽州一、朝晟分二統士馬一屯二木波堡一、十三年城、其地、泥謂二之木波鎮一、後又升爲二縣一。

【木馬】377 ベク ❶木製の馬。(說苑、談叢)木馬不能行、亦不費食。(南史、齊東昏侯紀)帝始欲騎馬、未習其事、俞靈韻爲作二木馬一、人在二其中一、行、勤進隨二意所適一、其後遂爲二善騎一。❷馬の鞍を置いた一輪車。(夢溪筆談、譏謔)信安滄景之間、多二蚊虻一、夏月牛馬皆以泥塗之、不爾便爲二蚊虻所斃一、郊行不二敢乘一馬、馬爲二蚊虻所毒一、則狂逸不可制、行人以二獨輪小車一、馬鞍蒙之以乘、謂二之木馬一、挽車者皆衣二韋袴一。❸塞の名。四川省劍角縣の東南。五代唐の長興の初、董璋、木馬寨に屯す。(讀史方輿紀要、四川、保寧府、劍州)木馬寨、州東南九十里、有二木馬嶺一、置二寨、其上以爲二守禦一、後唐長興初、石敬塘前鋒拔二劍州一、董璋自二閬州一、帥二兵屯一木馬寨一、卽此。❹山名。四川省昭化縣の西北に在り。(地理通釋)木馬山在二利州景谷縣西南二十五里一、諸葛武侯造二木牛流馬一、於此、故名。❺古の拷問の具。馬の背のやうなものに罪人を跨がらせて兩足に石を釣り下げる。(十訓抄、中)人をあざむきすかすは其の咎輕からぬ事なりとて雜色所へくだして木馬に乘せんとする間。❻機械體操の用具の一。木材で造つた馬の模形。縱又は橫からかけ寄り、身を躍らせて其の上に手を突き飛び越える。

【木馬子】378 ベク 軍用防守の具。一本の橫木の下に三足を置いたもので、高さ三尺長さ六尺、縱橫に重疊して敵騎を阻むもの。(武備志、四)木馬子、一橫木下、置二三足一、高三尺、長六尺。

木馬子(武備志)

【木柿】379 ベク 木の削り屑。斫り落した木片。こつぱ。こけら。木片。(晉書、王濬傳)濬造二船於蜀一、木柿蔽二江而下一。(說文)柿、削レ木札也。(後漢書、楊由傳)風吹二削柿一。(魏書、太祖紀)營二梓宮一、其木柿盡生成林。

【木杯】380 ベク 木製のさかづき。木盃。(唐書、韋嗣立傳)嗣立獻二木杯藤盤數十物一。

【木牌】381 ベク ❶木製の盾。木盾。(宋史、交阯傳)兵器止有二弓弩木牌梭槍竹槍一、弱不レ可レ用。❷木のふだ。きふだ。(福惠全書、刑名部、監禁)將二木牌一懸二于本監門之首一。(福惠全書、保甲部、城廂防守)然有二生產急病、請二穩延一醫者一、難レ待二天明一、每二十家長一、宜二預置一二小木牌一、名曰二夜行牌一。❸ゐはい。位牌。(福惠全書、教養部、立二義塚一)寫二于木牌一、竪二立塚前一。

【木箄】382 ベク いかだ。(清會典事例、戶部、關稅)竹木箄筏、每甲一錢。

【木莓】383 イチゴ 薔薇科の落葉亞灌木。莖、葉共に刺あり。果實は黃色で食用に供する。木覆盆。懸鉤子。(本草、懸鉤子、釋名)山莓、木莓。

【木煤】384 mei² 褐炭をいふ。

【木方】385 ベク ❶五行で木を東とすること。東方。(海道記、貞應二年四月十八日)木方初發の因地より萌して。❷宋、吳枋(8-3365‥347)の字。

【木邦】386 ベク 苗族の部落の名。雲南省龍陵縣の南邊外潞江流域。孟都、孟邦といふ。蜀漢の時、南蠻木鹿王の裔と傳ふ。元代、內附して木邦路軍民總管符を立て、明、木邦軍民宣慰司を置く。清の光緒二十年、薛福成、英國と約し、この地を中國に劃す。ついで中國、江洪の地の孟阿の一部を佛國に與ふ。英人遂に木邦を索めて賠償とす。(讀史方輿紀要、雲南)木邦軍民宣慰使司、古蠻夷地、本名孟都、又名二孟邦一、元至元二十六年、立二木邦路軍民總管府一、明朝洪武十五年、改爲二木邦府一、永樂初、改爲二宣慰使司一。

【木匏】387 ハウ 笙の かしら。うてな。(明會典、中和樂制度)笙十二、攢用紫竹十七管、下施二銅簧一、參左攢二於黑漆木匏一、中有二背項一、亦黑漆。

【木實】388 mu⁴ pao³ 賭博の一種。寶盒兒(8-7376‥41)に同じ。

【木房】389 ベク 辛夷の異名。こぶし。(事物異名錄、花卉部、辛夷)正字通、木筆花最早、卽離騷所謂辛夷者、一名、木房、象二包形一、又本草經作二房木一。

【木旁】390 ベク 漢字のきへん。(說文、栟櫚樓也、注)許書有二栟無一、櫚、櫚因二栟之木旁一、而同レ之耳。(緗素雜記)今人用二倚卓字一、多從二木旁一。

【木榜】391 ベク 清代、稅務官が各關の稅率を關口の街市に掲示した類。掲札。(清會典事例、戶部、關稅)指定徵收款目、刊二刻木榜一、竪二立各關口岸一。

【木蝨】392 ベク 蟲の名。あぶの一種。(本草、木蝨)釋名、魂常、集解、恭曰、蝨有二數種一、並能飈、血、揚浙以南江嶺閒、大有二木蝨一、長大綠色、始レ如レ蜩蟬、唯二牛馬一、或至二顚仆一。(名醫別錄)木蝨生二漢中川澤一、五月取レ之。(山堂肆考)蝨有二數種一、木蝨最大而綠色、今呼爲二王蝨一、又呼爲二舍命王一。

【木鉢】393 ベク 木製のはち。きばち。鉢は僧家の食器。(薩都剌、送龍翔寺約上人歸宜興詩)早趁二鐘聲一、持二木鉢一、夜隨二燈影一、認二禪牀一。

【木筏】394 ベク いかだ。(宋史、職官志)大府寺、汴河上下鎭、蔡河上下鎭、掌レ收二舟船木筏之征一。(元史、塔思傳)塔思命造二木筏一。

【木版】395 ハン 厚板の表面に文字・繪畫を彫刻した印刷用の版面、木に彫つた版。(清國行政法、汎論、成文法之公布)京報、用二木版活字一、印二刷之一。

【木版繪】396 モクハン 木版にほつて刷つた繪。

【木板】397 モクバン 板。いた。(福惠全書、保甲部、保甲之制、燈戶門牌式、注)用二梨木板一。

【木挽】398 コビキ 鋸で材木を挽く。又、それを業とする人。

【木盤】399 ベン 木製のはち。(雲林異景志)霍仙鳴別墅在二龍門一、室中開二八井一、皆以二雕鏤木盤一覆之、夏日坐二其上一、七井生レ涼、不レ知二暑氣一。

【木皮】400 モク 木の皮。樹皮。(後漢書、南蠻傳)織二續木皮一、染以二草實一。(元結、舂陵行)朝餐足二草根一、暮食仍木皮。

【木皮紙】401 モクヒシ 木の皮でこしらへた紙。(支那通史)上世有二筆墨一、而未レ有二木皮紙一。

【木皮嶺】402 ヘイ 山名。甘肅省成縣の東。兩當縣の界。入隴の要處。(讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、徽州)木皮嶺、在二州西十里一、山甚高險、唐黃巢之亂、王鐸置二關於此一、以遮二秦隴一。

【木皮三寸】403 ボンスン 樹の皮の厚さ三寸。寒地の樹木のさま。(太平御覽、時序、寒)戶子曰、朝方之寒、冰厚六尺、木皮三寸、北極左右、有二不レ釋之冰一。(漢書、鼂錯傳)夫胡貉之地、積陰上處也、木皮三寸、冰厚六尺。

【木皮散人鼓詞】404 ボクヒシサン 文章の名。明の遺老、賈鳧西の作。嬉笑怒罵の筆をもつて開闢以來の歷代の古亂興亡を述べた文。又略して木皮詞といふ。木皮とは鼓板の義。

【木筆】405 ボク ❶木製の筆。きふで。(唐書、于闐國傳)以二木爲レ筆、玉爲レ印。(東觀餘論)蔡邕於二鴻都下一、見下工人以二堊帶一成レ字、歸而爲二飛白之書一、非二便用一也。堊帶、蓋用レ筆效レ之而已、今人便謂二所用木筆一爲二堊帶一、謬矣。❷文字の書きぶり。筆蹟。(廣川書跋)字法奇古、木筆精絕。❸樹木の名。辛夷の異名。こぶし。(本草、辛夷)釋名、辛雄、候桃、房木、木筆、春映、藏器曰、初發如二筆頭一、北人呼爲二木筆一。(楚辭、九歌、湘夫人、辛夷楣兮葯房、注)辛夷花初發如レ筆、北人呼爲二木筆花一。❹鉛筆。もくひつ。

【木筆花】406 ボクヒツクワ こぶしの花。(本草、辛夷)集解、宗奭曰、辛夷處處有之、人家園亭亦多種植、先レ花後レ葉、卽木筆花也。(白居易、營閒事、詩)暖變二牆衣色一、晴催二木筆花一。(戴表元、林邨寒色詩)出門楊柳碧依依、木筆花開客未歸。

【木冰】407 ヒョウ 樹木に著いた氷。木介。(春秋、成、十六、春王正月雨木冰、注)記寒過レ節、冰封二著樹一。

【木夫】408 フ 清、瞿中溶(8-23747‥43)の號。

【木舞】409 コマヒ たるきの端にあつて櫨に連なる木。こまひぬき。又、壁の下地にわたす竹。(下學集、上、家屋)楣、木舞。

【木皿】410 ザラ 木製の皿。(驢驢嘶餘)。

【木鐶】411 ベン 木製のくつわ。(儀禮、既夕禮)約綏、約轡、木鐶。(注)取二少聲一。(疏)平常車館馬鑣、以二金鐶一之、今用二木一、是取二少聲一也。

【木杪】412 ボウ 樹のすゑ。こずゑ。木末。(正字通)

末、木杪也。〔謝靈運、山居賦〕攀ニ木杪一而哀鳴。〔杜甫、移居公安山館、詩〕路危行ニ木杪一、身遠宿ニ雲端一。〔柳宗元、閔生賦〕雄虺蓄ニ形於木杪一兮、短狐伺ニ景於深淵一。

【木貓】413 ボウ 鼠を捕へる器。ねずみとり。〔陳櫟、木貓賦〕惟木貓之爲ニ器兮、非ニ有ニ取ニ於象形一設ニ機械一以得ニ鼠兮、配ニ貓功一而借ニ名一。〔通俗編、獸畜、木貓〕按今仍呼ニ木作ニ鼠弶一爲ニ木貓一。

【木壁】414 ヘキ 板の壁。〔武備志、三〕賊勢衆撤之、撤ニ之不ニ及則焚ニ之、係ニ木壁一者、一焚而淨。

【木鼈】415 ベツ ●もくべつし。なんばんからすうり。うり科に屬す。〔本草、木鼈子〕釋名、木蟹、志曰、其核似ニ鼈蟹狀一、故以爲ニ名一。●漏籃子の異名。とりかぶと。〔本草、漏籃子〕釋名、木鼈子、虎掌。

【木鼈子鹼】416 ケン 化學名詞。ブルーシン。$C_{23}H_{26}H_2O_4$

【木片】417 ヘン 木のきれはし。きぎれ。〔搜神後記〕有ニ新斫木片一、逐ニ流下一。

【木篇】418 ヘン 西陽雜俎の篇名。

【木浦】419 ホ 朝鮮全羅南道西部の府。良港。鐵道湖南線の終端驛。

【木母】420 ボ ●梅の異名。梅の字を分けたもの。松を木公といふ類。〔湖海新聞〕北朝山濤字致遠、赴ニ召、宋神宗問曰、卿自ニ山路一來、木公木母如何、濤曰、木公正傲歲、木母正含ニ春、木公松也、木母梅也、稱ニ旨除一中書一。〔夷堅志〕木公松也、木母梅也。●母の木像。〔南史、梁元帝紀〕始居ニ文宣太后憂一、依ニ丁蘭作ニ木母一。〔梁武帝、孝思賦〕刻ニ木母一以供事、常朝夕而在ニ傍一。

【木暮】421 ボ 木蔭の薄暗い所。木陰。

【木蜂】422 ホウ 蜂の一種。みかばち。〔爾雅、釋蟲、木蜂、注〕似ニ土蜂一而小、在ニ樹上一作ニ房、江東呼爲ニ木蜂一。

【木末】423 マツ 彼此の木。多くの木。〔古今和歌集、秋、下〕木々の木の葉の散りとまがふに。

【木本】424 ホン ●木の根もと。木本水源を見よ。●植物學上の用語。木質莖を有する植物の稱。喬木・灌木の二種あり。〔陔餘叢考、木綿布行〕於宋末元初〕其時棉花未レ入ニ中土一、不レ知ニ其爲ニ木本草本一。

【木本水源】425 ホンゲン 子たるものは吾が身の本を思ふべき喩。兩親は木の本、水の源のやうであるからいふ。〔左氏、昭、九〕我在ニ伯父一、猶主ニ衣服一之有ニ冠冕一、木水之有ニ本原一、民人之有ニ謀主一也。〔國朝漢學師承記、顧炎武〕國朝諸儒究ニ六經奥旨一、與ニ兩漢一同ニ風一、二君實啓ニ之一、榮瓜祭ニ飲食一之人、芹藻釋ニ瞽宗一之奠、乃木本水源之意也。

【木本黃精葉鉤吻】426 ホンオウセイヨウカウフンイキ どくうつぎ。いちろべごろし。しまうつぎ。山野に自生する落葉灌木。果實に猛毒を含む。

【木畚】427 モッキ 木製のもつこ。〔太平御覽、皇王、夏帝禹〕輕子曰、禹之王ニ天下一也、身執ニ木畚一以爲ニ民先一、股無ニ完胼一、體無ニ毛一、雖ニ臣虜之勞一、不レ若ニ於此一矣。

【木盆】428 ボン 木製の盆。盥の類。〔羅湖野錄〕青龍江上、乘ニ木盆一張ニ布帆一。

【木麻】429 モマ 草の名。葉は胡麻に似て、酒を造る、こともに出來る。〔本草、木麻〕集解、藏器曰、木麻、生ニ江南山谷林澤一、葉似ニ胡麻一相對、山人取以釀酒飲。

【木磨】430 マ 木をみがく。〔張說、陳州龍興寺碑〕木磨而不レ雕、土塗而不レ節。

【木末】431 マツ こずゑ。木の末端。梢。木杪。〔楚辭、九歌、湘君〕采ニ薜荔兮水中一、搴ニ芙蓉兮木末一。〔張衡、西京賦〕陵ニ重巘一、獵ニ昆鯀一、抄ニ木末一、攫ニ獑猢一。〔陸游、入蜀記〕八日晨至ニ鍾山一、云云、塔西南有ニ小軒一、曰ニ木末一、其下皆大松、髯甲夭矯、如ニ蛟龍一、往往數百年物、木末蓋後人取ニ王文公詩、木末北山雲冉冉之句一、名之、建康志謂ニ公自命一此名一、非也。

【木魅】432 ビ 老木の精。木の怪。〔鮑照、蕪城賦〕木魅山鬼、野鼎城狐。〔注〕善曰、說文曰、魅、老物精也。〔洞天清錄、山精木魅之能爲ニ祟者一。

【木密】433 ミツ 關の名。雲南省尋甸縣の東。〔滇南紀遊〕木密關、有ニ小關索嶺一、上有ニ武侯及關索祠一、祠前銅馬一、乃唐時物也、古柏大數圍、有ニ碑云、武侯平ニ蠻、會盟在一此、史稱ニ亮盟一南人於木密一、卽此。

【木蜜】434 ミツ ●枳椇の異名。けんぽなし。〔詩、小雅、南山有臺、南山有ニ栲、疏〕陸璣疏曰、栲樹高大似ニ白楊一、有ニ子著ニ枝端一、大如ニ指、長數寸、噉ニ之甘美如ニ飴、八月熟、今官園種ニ之、謂ニ之木蜜一。〔本草、枳椇〕釋名、蜜棧、檄、蜜屈律、木蜜、木錫、木珊瑚、雞距子、鷄爪子。●蜜香の異名。〔本草、蜜香〕釋名、木蜜、沒香、多香木、阿瑟。〔廣志〕木蜜樹、號ニ千歲根一、甚大、伐ニ之四五歲乃斷、取ニ不腐者一爲ニ香一。●棗の實の異名。〔事物異名錄、果蓏、棗〕太平廣記、木蜜、棗子也。

【木綿】435 メン ●ばんや。べんがるぼだいじゅ。斑枝花。古貝。木綿科の常綠喬木。長形の實を結び、種子は白色の長い軟毛を有す。軟毛を蒲團の心とする。〔本草、木綿〕釋名、古貝、古終、時珍曰、木綿有ニ二種一、似ニ木者名ニ古終一、或作ニ吉貝一者、乃古貝之訛也、集解、時珍曰、木綿有ニ草木二種一、交廣木綿樹大如ニ抱、其枝似ニ桐、其葉大如ニ胡桃葉一、入ニ秋開ニ花、紅如ニ山茶花一、黃蕊花片極厚、爲ニ房甚繁、短側相比結ニ實、大如ニ拳一、實中有ニ白綿一、綿中有ニ子一、今人謂ニ之斑枝花一。〔天祿識餘、木棉、通鑑、梁武帝木綿皀帳、史照釋文云、木棉江南多有之、以ニ春ニ三月一下ニ種一、既生須ニ一月三蘇一、至ニ春生ニ黃花一、結ニ實及ニ熟時一、其皮四裂、其中綻出如ニ綿一、土人以ニ鐵鋌一碾ニ去其核一、取ニ如ニ綿者一、以ニ竹弓一小弓、長尺四五寸許、牽ニ弦以彈一綿、今其均細、卷爲ニ筒、就ニ車紡一之、自然抽緒、如ニ繰一絲狀、織以爲ニ布、按、此卽今之棉花也、綿有ニ三一、一曰ニ絲綿一、出ニ於蠶繭一、一曰ニ木綿一、出ニ於交廣一、名ニ班枝花一、一曰ニ草綿一、史照釋文所一言形狀是一、而以解ニ木綿一、則非也。〔陔餘叢考、木棉布行〕於宋末元初〕古時未有ニ棉布一、風布皆麻爲ニ之一、云云、木棉作ニ布、邱文莊謂、元時始入ニ中國一、云云、是六朝以前木棉布乃吉貝樹之花所成、係ニ木本一而非ニ草本一。●メン ㋑もめんわた。棉花。〔下學集、下〕木綿、木名也、亦衣類也。㋺もめんおり。㋩もめんいと。㋥あさかはで製した紙。又は布。㋭和名抄、祭祀具、木棉〕本草經注云、木綿、折レ之多ニ白絲一者也。●コワタ 姓氏。〔姓林全書〕。

【木綿菴】436 メンアン 地名。福建省龍溪縣の南。

【木綿花】437 クワメン ●木綿の花。〔白居易、新製ニ綾襖一成感而有ニ詠詩一〕鶴氅裘疎無ニ實事一、木綿花冷得ニ虛名一。〔李商隱、李衞公詩〕今日致ニ身歌舞地一、木綿花暖鷓鴣飛。●ハタ 古、婦人の髮飾として木綿で製した造花。〔萬葉集、二〕木綿花の榮ゆる時に。

【木綿絲】438 イト 木綿わたを紡いだ絲。綿絲。

【木綿鞦】439 シウイ 木綿の緒を並べて横にとちつけた鞦。鞦は馬の尾から鞍にかける組紐。〔馬具寸法記、附錄〕松永彈正少弼久秀より伊勢守貞孝へ被尋申候事、もめんしりがいいかがの事。

【木綿樹】440 ジュ 木綿の●に同じ。〔吳錄〕交州永昌木綿樹、高過ニ屋一、有ニ十餘年不レ換者一、實大如ニ酒杯一。

【木綿織】441 モリ 木綿絲で織つた織物。木綿物。

【木綿垂】442 シデ 木綿で造つたしで。玉串・注連などに附ける。〔拾遺和歌集、神樂〕榊葉にゆふしでかけて。

【木綿髮】443 ケウ 額髮の毛色の白い馬。〔枕草子〕げにゆふがみともいひつべし。

【木綿物】444 モノ 木綿織の衣服。

【木綿髮】445 ケウ 木綿で作つたかづら。〔齋宮寮式〕每朔日木綿髮ニ參ニ入齋殿一、遙ニ拜ニ大神一。

【木綿綿】446 メン 木綿の萌果內にあつて、種子に著生する白毛。〔綿花〕。

【木綿帷】447 ユカ ●木綿で造つたたすき。●かけるの枕詞。

【木綿欅】448 ユカ 筑前國湯川山の別稱。

【木綿撥車】449 ボウ もめんのまひば。木綿を絡ふ具。〔三才圖會、木綿撥車圖考〕木綿撥車、其制頗肖ニ麻苧幡車一。

木綿撥車（三才圖會）

【木綿間鳥】450 ユカ 雞の異名。古、世の亂れた時、四境の祭とて、雞に木綿をつけ、京城の四境の關に至つて天下泰平を祈らしめたといふ。ゆ

ふつけのとり。〔古今和歌集、戀、四〕逢坂のゆふつけ鳥も我が如く。

【木目】451 モク ❶材木の斷面にあらはれた組織の模樣。きめ。もく。木理。〔運歩色葉集〕木目。❷ メ 姓氏。

【木目漬】452 モクメヅケ 通草 ドウ の芽を鹽漬にしたもの。一說に、山椒の若芽を鹽漬にしたもの。〔雍州府志、六〕木目漬、洛北鞍馬土人、春末夏初、採二通草葉一、與二忍冬葉一、木天蓼葉一、合、細剉一之、以二鹽水一漬一之、然後陰乾用一之。

【木門】453 モクモン ❶春秋、晉の邑の名。〔左氏、襄、二十七〕止二使者一而託二於木門一。〔注〕木門、晉邑。❷鎭の名。四川省大竹縣。❸谷の名。甘肅省天水縣の西南。三國蜀の建興九年、司馬懿が張郃を遣はして諸葛亮を追ひ、進んで木門に至る。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、秦州〕木門谷、在二州西南九十里一、蜀漢建興九年、武侯圍二祁山一、以二糧盡一退軍、司馬懿遣二張郃一追之、郃進至二木門一、蜀人乘二高布一伏、郃中二飛矢一而卒、水經注、木門谷水出二南山北流入一注二於渭一、胡氏曰、谷在二天水縣南十里一。❹複姓。〔萬姓統譜〕木門、宋公子食二采木門一、因氏焉。❺木下順庵一門の門人。又、其の門人。

【木門派】454 モクモンハ 木下順庵一門の學派。程朱の學風を尊信し、十三經注疏を精讀すべきことを唱ふ。新井白石・室鳩巣が其の門下から出た。

【木門十哲】455 モクモンジッテツ 木門の五先生に南部思聰・松浦霞沼・三宅晦用・服部紹卿・向井魯甫を加へていふ。

【木門五先生】456 モクモンゴセンセイ 木下順庵の門下の五人の逸才。新井白石・室鳩巣・雨森芳洲・祇園南海・榊原篁洲。

【木油】457 mu⁴ yu² 桐油。

【木輿】458 モクヨ 板輿。(8－145118・77)の❶に同じ。〔守貞漫稿、後、三〕板輿、木輿ともいふ。木輿は漆等を用ひず、白木也。

【木擁】459 ボヨウ 木でかこひをする。柵を作る。〔揚雄、長楊賦〕木擁二槍檣一、以爲二儲胥一。〔注〕善曰、木擁二柵其外一。

【木螺】460 モクラ 蟲の名。みのむし。蓑蟲。簑衣丈人。〔採蘭雜志〕結草蟲、一名木螺、一名簑衣丈人。

【木碼】461 mu⁴ lei⁴ もみすり臼。唐臼。たううす。

【木絡】462 モクラク 盾の一種。〔釋名、釋兵〕盾以縫二編版一謂二之木絡一。

【木落】463 ボラク 木の葉が落ちる。落葉する。〔謝靈運、夜宿石門一詩〕鳥鳴識二夜棲一、木落知二風發一。〔李白、荆州賊亂臨二洞庭一言懷作詩〕風悲猿嘯苦、木落鴻飛早。

【木酪】464 モクラク 木の實を煑て作つた酪。あんずざけの類。〔漢書、食貨志〕遣二大夫謁者一教二民煮一木爲酪一、酪不可一食、重爲二煩擾一。〔注〕如淳曰、作二杏酪之屬一也。

【木櫓】465 モクラン 樹木の名。いぼたの木。〔函史〕樹可放二蠟一、煎二汁爲一油可一作一燭、今江南北放蠟者、謂二之木櫓一、其樹似二女貞一而異。

【木蠟】466 モクラウ 櫨樹の果實の中果皮から壓搾法又は浸出法によつて採取する蠟。櫨蠟・樹蠟・日本蠟ともいふ。主としてパルミチン酸から成る。從つて眞の意味の蠟でなく、脂肪である。蠟燭・醫藥・化粧品等の製造並に艶出用・皮革用に利用される。

【木藍】467 モクラン 草の名。多年生の草。染料に用ひる。其の形はあゐと異つているが、あゐだまを作ることは同じである。馬蓼。野槐樹。〔本草、藍〕集解、時珍曰、木藍長莖如二決明一、高者三四尺、分二枝布一葉、葉如二槐葉一、七月開二淡紅花一、結二角長寸許一、蕚蕚如二小豆角一、其子亦如二馬蹄決明子一而微小、迥與二諸藍一不一同、而作二靛則一也。

【木蘭】468 モクラン ❶樹木の名。あららぎ。もくれん。葉は桂に似て厚大、花の色は紅・黄・白、心は黄色。杜蘭。林蘭。〔本草、木蘭〕釋名、杜蘭、林蘭、木蓮、黄心、時珍曰、其香如二蘭一、其花如二蓮一、故名。〔楚辭、離騷〕朝搴二阰之木蘭一兮、夕攬二洲之宿莽一。〔韓非子、儲說左上〕楚人有二賣一其珠於鄭者一焉。以二木蘭之櫃一、薰二桂椒之櫃一、綴以二珠玉一、飾以玫瑰一、輯以二羽翠一、鄭人買二其櫃一而還二其珠一。〔史記、優孟傳〕齎以二薑棗一、爲以二木蘭一。〔司馬相如、子虛賦〕榱桷攙章、桂椒木蘭。〔三輔黄圖〕以二文梓一爲二船、以二木蘭一爲二柁一。〔洛陽花木志〕木蘭似二木筆一、但木高丈餘、開花與二牡丹一同時發。❷山名。㋑湖北省黄陂縣の北。〔太平寰宇記〕舊木蘭縣、取二此爲一名。㋺福建省莆田縣の南。❸溪流の名。福建省莆田縣の南。瀨溪の下流。木蘭山下を經るから名づく。〔讀史方輿紀要、福建、興化府、莆田縣〕木蘭溪、府南七里、木蘭當二戶有一水曰二南洋一、唐觀察使裴次元隄二海一爲二三百頃一、卽此處也。❹縣名。㋑南齊置。湖北省黄安縣の南。〔讀史方輿紀要、湖廣、黄州府、黄岡縣〕木蘭城、府西北百五十里、蘄子顯齊志、木蘭縣屬二安蠻左郡一。㋺清置。木蘭山省通河縣の西。〔清史稿、地理志〕黑龍江、呼蘭府、縣一、木蘭縣。❺古の孝女。男裝して父に代つて征戍し、十二年にして歸る。其の女子たるを知るものが無かつた。木蘭の時代に就いては異說が多い。姚瑩の康輶紀行は北魏の孝文帝・宣武帝の時の人とし、宋翔凰の過庭錄は隋の恭帝の時の人とし、程大昌の演繁露は隋に非ざれば唐とす。其の生地も、或は河北省完縣といひ、或は河南省商邱縣といひ、或は潁州の人といふ。其の姓も、明一統志には朱姓といひ、清一統志には魏姓といひ、徐渭の四聲猿傳奇には花姓といふ。木蘭辭を見よ。〔杜牧、題二木蘭廟一詩、序〕号二征戰作一勇兒一、夢裏曾經學畫眉、幾度思歸還把酒、拂雲堆上祝二明妃一。㋻北周、韓雄(12－43159・221)の字。

【木蘭花】469 モクラン 詞牌の名。木蘭花令ともいふ。又、曲牌の名。北曲では平調隻曲に入る。〔詞譜〕唐教坊曲名、太和正音譜注高平調、按、花間集載二木蘭花・玉樓春兩調一、其七字八句者爲二玉樓春體一、從無與二玉樓春一同者一、自二尊前集誤刻一以後、宋詞相沿、率多混塡。〔詞律〕按、唐詞木蘭花、其七字八句者名二玉樓春一、至二宋則皆用二七言一、而或名二之曰玉樓春一、或名二之曰木蘭花一、又或加二令字一、兩體遂合爲一」、想必有一所據。

【木蘭橋】470 モクラン 橋の名。豬蘭(10－36432・56)に同上。〔襄陽耆舊傳〕木蘭橋者、今之豬蘭橋也。劉弘季以此橋近二狹、有二戟棨一、乃於二橋東一大養二豬一、襄陽太守皮府君因更名豬蘭橋。

【木蘭辭】471 モクランジ 古樂府。作者未詳。女丈夫木蘭が男子に扮して戰爭に出で恙なく鄉里に歸つたことを敍した古詩。木蘭の❹を見よ。〔樂府詩集、横吹曲辭、木蘭詩〕古今樂錄曰、木蘭不一知名一、浙江西道觀察使兼御史中丞韋元甫續附入。〔古樂府、木蘭當戶織、不一聞機杼聲、惟聞女歎息、問二女何所思、問二女何所憶一、女亦無所思、女亦無所憶、昨夜見二軍帖一、可汗大點二兵、軍書十二卷、卷卷有二爺名一、阿爺無二大兒一、木蘭無二長兄一、願爲二市鞍馬一、從二此替一爺征、東市買二駿馬一、西市買二鞍韉一、南市買二轡頭一、北市買二長鞭一、朝辭二爺孃一去、暮宿二黄河邊一、不一聞爺孃喚一女聲一、但聞黄河流水鳴濺濺、旦辭二黄河一去、暮至二黑山頭一、不一聞爺孃喚一女聲一、但聞燕山胡騎聲啾啾、萬里赴二戎機一、關山度若飛、朔氣傳二金柝一、寒光照二鐵衣一、將軍百戰死、壯士十年歸、歸來見二天子一、天子坐二明堂一、策勳十二轉、賞賜百千强、可汗問二所欲一、木蘭不一用一尚書郎一、願馳二千里足一、送兒還二故鄉一、爺孃聞二女來一、出郭相扶將、阿姊聞二妹來一、當戶理二紅妝一、小弟聞二姊來一、磨刀霍霍向二豬羊一、開二我東閣門一、坐二我西閣林一、脫二我戰時袍一、著二我舊時裳一、當二窗理二雲鬢一、對二鏡帖二花黄一、出門看二火伴一、火伴皆驚忙、同行十二年、不一知木蘭是女郎一、雄兔腳撲朔、雌兔眼迷離、雙兔傍二地走一、安能辨二我是雄雌一。

【木蘭舟】472 ノフネ ❶木蘭で造つた舟。〔逃異記〕木蘭川在二潯陽江中一、多二木蘭樹一、魯般刻爲二舟。〔柳宗元、酬二曹侍御過二象縣一見寄詩〕破額山前碧玉流、騷人遠駐木蘭舟。❷清、王學浩(7－2082 3・1265)の號。

【木蘭色】473 ジキラン 染色の名。黄・紅・赤の雜色。木蘭樹の皮で染めるからいふ。樣 ヤウ の薄い色に黄味を交ぜたもの。古く印度・中國で袈裟の色に用ひ、我が國でも令には僧色の一と定めた。〔僧尼令、義解〕凡僧尼聽二著一木蘭及擬色等衣一、謂二木蘭者黄樣一也。

【木蘭船】474 モクランフネ 木蘭で造つた船。〔劉孝威、採蓮曲〕金槳木蘭船、戲採江南蓮。

【木蘭皮】475 モクラン 國の名。〔和漢三才圖會、外夷

人物、木蘭皮」三才圖會云、大食國西有二巨海一、國之西有一國、不レ可二勝數一、大食巨盤所レ可レ至者、惟木蘭皮耳。

【木蘭圍場】476 ボクランウイ 地名。滿洲熱河省圍場縣。もと蒙古喀喇沁・敖漢・翁牛特諸旗の地。清の康熙の時、獻して狩獵に供す。康熙以來、諸帝が毎歲八月此處で狩獵を行ひ、是を木蘭秋獮といふ。木蘭は滿洲語の哨鹿である。四面に界を立て、柳條邊といふ。東界の圍場十、西界の圍場九、南界の圍場六、北界の圍場三、中界の圍場九、東南界の圍場十五、西南界の圍場四、東北界の圍場八、西北界の圍場五。咸豐以後、狩禮廢され、光緒の初、圍場廳を置く。民國、縣に改む。(清會典、理藩院、王會清吏司)凡內札薩克王以下、各以二其班一、觀二於山莊一、以備二木蘭行圍一、曰二圍班一、遂管圍隨圍、若卓索圖・若昭馬達二盟長一、皆率二其部一、以執二圍場之役一。〔注〕皆先於二喀喇河屯一迎駕、隨至二熱河一、再隨駕入二木蘭圍場一、云云、圍場、在二卓索圖盟之西一、昭烏達盟之南一、故兩盟內各旗、就二近率一其屬下官兵一、執役。

【木蘭花慢】476 ボクランクワマン 詞牌の名。〔詞譜〕此調押二短韻一者、以二柳永清明詞及倚危樓竚立詞一、爲二正體一、不レ押二短韻一者、以二程垓倩嬌鶯蛇燕詞一、爲二正體一。(升菴詞品)此調惟柳永清明詞得二音調之正一、蓋用二傾城・盈盈・懷情一、皆於二第二字一、藏二短韻一。〔詞律〕此調作者如林、至二蔣捷味水詞一、規矩森然、可レ謂二毫髮無憾一矣。

【木欒】475 モクラン 樹木の名。種子は珠數を作る。もくげんじ。ぼだいじゅ。木槵子。木欒子を見よ。

【木欒子】478 モクランシ 木欒の種子。〔本草、欒華〕集解、宗奭曰、長安山中亦有レ之、其子謂二之木欒子一、攜至二京師一、爲二數珠一、未レ見二入レ藥一。

【木李】479 リ 槑檍の異名。くわりん。〔詩、衞風、木瓜〕投レ我以二木李一、報レ之以二瓊玖一。〔本草、槑檍〕釋名、蠻檍・瘙檍・木李・木黎。

【木里】480 ボリ 溝洫の名。湖北省宜城縣の東。又、木渠といふ。〔水經、沔水注〕楚時于二宜城東一穿レ渠、上口去レ城三里、漢南郡太守王寵又鑿之、引二蠻水一灌レ田、謂二之木里溝一、逕二宜城東一而東北入二于沔一、謂二之木里水口一也。

【木理】481 ボクリ 木の幹の中にある輪狀の線。一年に一輪を增す。もくめ。年輪。〔詩、唐風、杕杜、有二杕之杜一、疏〕赤棠木理剔、赤可二以作一弓幹一。〔左思、魏都賦〕德連二木理一、仁挺二芝草一。〔注〕善曰、孝經援神契曰、德至二草木一、則木連レ理。

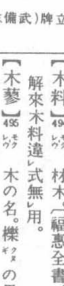
【木槵】482 ボク 槑檍(θ—15244‥2)の異名。木李(479)を見よ。

【木履】483 リ ●木製のくつ。下駄の類。(木草、履屨奥繩)釋名、木履、時珍曰、履乃木履之下有レ齒者。〔漢書、五行志〕延熹中、京都長者皆著二木履一。〔續近思錄〕著二木履一行二泥濘處一。●④足駄。(新永代藏、一)雨の日、木履・傘、是を天氣のよき時取りおかざれば、又の雨天に事を缺くは眼前なり。⑪ボク下駄の一種。主に少女が用ひる。一材から成り、臺木の底をくり、後方は角をとつて圓くし、黑・赤などに塗る。ぽつくり。

【木釐】484 リ 清代、木材に課した釐金。〔清會典事例、戶部、釐稅〕委員赴レ楚購二買木料一、沿途經過關卡、免レ抽二釐稅一。

【木立】485 ボクリツ たちき。なみき。

【木立牌】486 ボクリツハイ 木製のたて。〔三才圖會、器用〕木立牌、高五尺、濶三尺、背施二橫幅一、連轉二拐子一、長三尺。



木立牌(武備志)

【木栗】487 モクリツ 木の名。〔神異經〕木栗出二東北荒中一、有レ木高四十丈、葉長五尺、廣三寸、其實徑三尺二寸、其殼赤、其肉白、其味甜。

【木樑】488 mù liáng はり。梁。

【木陵】489 ボクリヨウ ●關の名。河南省光山縣の南の木陵山の上。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府、光州、光山縣、木陵關、在二縣南一百三十里一、南至二湖廣麻城縣一、八十里、有二木陵山一、關在二其上一、水經注、木陵關在二黃武山東北一、晉西陽城東南一、南北代時爲二戍守要地一、梁天監初、將軍張謇之侵二魏淮南一取二木陵戍一、旋復陷二于魏一。●山名。湖北省麻城縣の北。木陵關がある。〔讀史方輿紀要、湖廣、黃州府、麻城縣〕縣西北八十里、樹木森密、岡陵隱蔽、邑之望山也、上有二木陵關一。

【木龍】490 リュウ ●木を刻んで造つた龍。(三輔黃圖)刻二桐木一爲二虬龍一。●木を河岸に構へて水の氾濫を防ぐ設備。(宋史、河渠志)天禧五年正月、知滑州陳堯佐、以二西北水壞一、城無二外禦一、築二大隄一、復鑿二橫木一、下垂二木數條一、置二水旁一、以護レ岸、謂二之木龍一、當時賴レ焉。●木の名。(西陽雜俎、續集、支植上)木龍樹、徐之高家城南有二木龍寺一、寺有二三層甎塔一、高丈餘、塔側生二一大樹一、榮繞至二塔頂一、上平容二十餘人坐一、枝幹交橫、枝杪四向下垂、如二百子帳一。●船の中にをるといふ龍。平時は見えず、若し其の去るのを見れば舟が覆るといふ。(郁永河海上紀略)凡海船中必有二一蛇一、名曰二木龍一、自二船成日一、卽有レ之、平時曾不レ可見、亦不レ知二所レ處、若見二木龍去一、則舟必敗。

【木酥】491 ボソ 木にあるまま成熟した柿。木晒足)古者椎車無レ柔、棧輿無レ植、及二其後一、木輪不レ衣。

【木輪】492 ボリン 軾の上にある橫木。(鹽鐵論、散不足)古者椎車無レ柔、棧輿無レ植、及二其後一、木輪不レ衣。

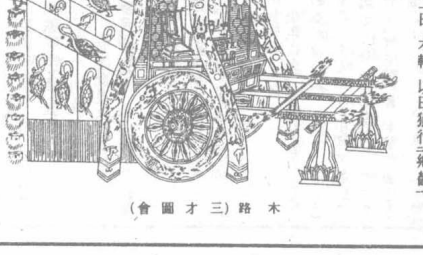
【木靈】493 ボレイ ●樹木の靈魂。木の妖靈。〔源氏物語、蓬生〕こだまなど、けしからぬ物ども所を得て。●山彥 ヤマビコ 反響。

【木料】494 レウ 材木。〔福惠全書、庶政部、額外雜辨〕解來木料違二式無一用。

【木蓼】495 ボクリツ 木の名。櫟 ボクレキ の異名。〔爾雅、釋木、櫟其實梂、疏〕櫟似レ樗之木、梂盛レ實之房也、河南人謂二木蓼一、爲レ櫟、椒椒之屬也。

【木蓮】496 モクレン 木の名。●常綠の蔓生灌木。葉は厚くて橢圓、花は細小、實は饅頭狀。俗名、木饅頭。薛荔(θ—32125‥10)を見よ。〔本草、木蓮〕釋名、薛荔・木饅頭・鬼饅頭、時珍曰、木蓮饅頭、象二其實形一也。●木蘭(468)に同じ。〔本草、木蘭〕釋名、杜蘭・林蘭・木蓮・黃心。●木芙蓉(551)の異名。〔本草、木芙蓉〕釋名、地芙蓉・木蓮・華木・枕木・拒霜、時珍曰、此花艷如二荷花一、故有二芙蓉木蓮之名一。●樣 ヤウ の異名。〔事物異名錄、果蔬、樣〕古今注、杅實曰レ樣、東海及徐州謂二之木蓮一。

【木路】497 モク 車の名。王の五路の一。飾りのない車。木で造つて漆を塗り、革や金具を用ひないもの。後世は圖の如きものがある。(周禮、春官、巾車)木路、前樊鵠纓。(注)木路、不二鞔以レ革、漆之而已一。(晉書、禮志)武帝泰始四年、乘二輿御一二木路一、以耕、以二太牢一祀二先農一。(隋書、禮儀志)十二輅、十二日、木輅、以田獵行二鄉畿一。



木路(三才圖會)

【木輅】498 モク ●刑具の名。木馬攻めの拷問に用ひる。〔西廂記、張君瑞慶二團圓一、雜劇〕遲和レ疾上二木驢一。●攻城の具。これに隱れて城に近づき攻める。〔舊唐書、薛愿傳〕愿爲二潁川太守一、賊將阿史那以二銳卒一併攻、爲二木驢・木鵝・雲梯・衝櫓一、四面雲合。〔資治通鑑、梁紀〕武帝、太清二年癸丑、景作二木驢數百一、攻レ城。〔注〕杜佑曰、以レ木爲レ脊、長二一丈、徑二尺五寸一、下安六腳、下闊而上尖、高七尺、內可容二六人一、以二濕牛皮一蒙之、人蔽二其下一、昇直抵二城下一、木石鐵火所不レ能レ敗、用攻レ城、謂二之木驢一。

【木驢】499 ロ 木路に同じ。木の名。木馬攻めの拷問に用ひる。

【木礱】500 ボクロウ 籾をする器。たううす。唐臼。(天工開物、攻稻)凡稻去レ殼、用レ礱去レ膜、用レ舂用レ碾、然水碓主レ舂、則兼併二礱功一、燥二乾之、穀入碾亦省二礱也一。礱有二一種一、用レ木爲レ之、截レ木尺許、斷合成二大磨形一、兩扇皆鑿二縱橫斜齒一、下合植レ筍穿貫、上合空二中受一レ穀、木礱攻レ米二千餘石、其身乃盡、凡木礱穀不二甚燥一者、入礱亦不レ

碎、故人貢軍國漕儲千萬、皆出二此中一也。

木臂（天工開物）

【木王】501 木の名。梓の異名。〔本草、梓〕釋名、木王、時珍曰、按、陸佃埤雅云、梓爲二百木長一、故呼二梓爲一木王一。〔埤雅、釋木〕梓爲二木王一、蓋木莫二良於梓一、故書以二梓材一名一篇、體以二梓人一名一匠也。

【木椀】502 木を刳りて製した椀。多く漆を塗って造る。〔庭訓往來、十月〕饒州茶碗并木椀。

【飲木】503 樹木に傷つけ、其の汁をとって飲むをいふ。〔左思、吳都賦〕窮陸飲二木一、極沈水居。〔注〕劉曰、朱厓海中有二渚一、東西五百里、南北千里、無二水泉一、有二大木一斬之、以二盆甕一承二其汁一而飲之。

【柞木】504 木を切る。〔張衡、西京賦〕焚二萊平一場、柞木翦一棘。

【就木】505 棺槨に入る。死ぬこと。〔左氏、僖二十三〕將適二齊、謂二季隗一曰、待二我二十五年一矣、不レ來而後嫁、對曰、我二十五年一矣、又如二是而嫁一、則就二木焉一、請待レ子。〔注〕言將二死入一レ木、不レ復成二嫁也一。〔會箋〕木、棺槨也。

【入二木一】506 ●木版に書いた文字の墨痕が版にしみ入つてゐるをいふ。轉じて、筆力の雄健なこと。入木道。〔白居易、鷄距筆賦〕無二以表一二入木之功一。〔書斷〕王羲之、晉帝時、祭二北郊一、更二祇板一、工人削レ之、筆入レ木三分。●棺槨に入る。死ぬこと。就木を見よ。

【木假山】507 山の形に似た木の株。〔蘇洵、木假山記〕子之愛レ之、則非二徒愛一其似レ山、而又有レ所二感焉一。〔五雜俎、地部、一〕余在二德平一、葛尚寶圖見二木假山一座一、巖洞峰巒、皆木頭疊成、不用二片石杯土一也。

【木海月】508 きのこの名。接骨木又は桑などに生ずる菌。木耳。

【木甘茶】509 木の名。虎耳草科の灌木。葉を煮て甘茶に作り、灌佛會に供す。あまちや。

【木橄欖】510 宋の張邵が會寧で教授した時、字を書いて暗誦させた木をいふ。〔宋詩紀事、引二待制張公行實一〕公在二會寧一、十多從レ之授レ書、生徒斷二於其上一、捧誦既過、削去復書、中圓如レ瓠而首尾尖、目レ之曰二木橄欖一、蓋其俗兒童習誦率以レ此。

【木期古】511 地名。雲南省巧家縣の西北。大江の西岸。

【木寓龍】512 木を以て龍に象つたもので、天を祭るに用ひた。〔木潤龍（118）を見よ。〔漢書、郊祀志〕木寓龍二駟。〔注〕李奇曰、寓、寄也、寄二生龍形於木一也、師古曰、一駟亦四龍也。

【木果木】513 山名。四川省懋功縣の西北夢溪山の南。清の乾隆中、金川を征し、溫福が此處に駐兵して破れ、陣沒した處。

【木華黎】514 元の人。札剌兒氏。諡は忠武。射を善くす。太祖に事へ、數二金を伐つ。追封は魯國王。軍中に在ること殆と四十年。〔元史、一百十九〕。

【木廣莫】515 宋、雍孝聞（11－42000‥71）の賜姓名。

【木患子】516 樹木の名。もくげんじ。木槵子に同じ。〔本草、無患子〕釋名、木患子・噬患・肥珠子・油珠子・菩提子・鬼見愁、時珍曰、釋家取爲二數珠一、故謂二之菩提子一。

【木煥卿】517 鈴木澶泓（11－40267‥35）を見よ。

【木槵子】518 樹木の名。山林に自生する落葉喬木。むくろじ。もくげんじ。樹皮は灰白色で平滑。葉は互生で羽狀複葉、花は淡綠色で細小、果實は圓形の核果で、外皮は洗濯用に供し、種子は念珠・羽子等に用ひる。無患子・木患子・木槵樹。〔宋史、日本傳〕彌執元年貢二佛經一納二青木函一、琥珀水晶紅黑宋槵子念珠各三一連一。〔法苑珠林〕若欲二減一煩惱障一者、當貫二木槵子一百八一常常自隨一。〔明一統志〕鈗女府、土產二木槵子一。〔俗云、不用二片石杯土一也。

【木公怨】519 明の人。摩些蠻から出で、世〻麗公知府を授けらる。世宗の時、襲職し、英毅にして幹局あり、諸夷を綏輯し、忠順を以て自ら勵ます。讀書賦詩を好み、中土の士大夫の風あり。嘗て永昌の張愈光と相倡和し、楊用修其の詩を錄して雲山詩選と名づく。〔明人小傳、五〕。〔明詩綜、九十四〕。

【木刻畫】520 木版畫をいふ。

【木塞樝】521 mu⁴ sai⁴ chu¹ コルク樹。Corkoak の譯名。

【木巢南】522 猿の異名。〔事物異名錄、獸畜、猿〕樹萱錄、王縉嘗讀二書嵩山一、有二四叟一、攜榼來訪、自稱二木巢南・林大節・孫文蔚・石媚虬一、高談劇飲、既醉、俱化爲レ猿、升レ木而去。

【木朔藿】523 樹木の名。接骨木（5－12280‥53）の●の異名。にはとこ。〔本草、接骨木〕釋名、續骨木、木萌藿、頌曰、接骨以レ功而名、花葉都類二萌藿一。陸英水芹輩、故一名二木萌藿一。

【木醋酸】524 木材乾溜の際得られる粗木醋液を靜置してタール分を除去した液。醋酸及びその精の製造に利用さる。

【木珊瑚】525 ●樹木の名。枳根（6－14583‥6）の異名。けんぽなし。〔本草、枳根〕釋名、蜜楨・蜜屈律・木蜜・木錫・木珊瑚・雞距子・雞爪子。●枝つきのさんご。えださんご。

【木齒丹】526 櫛の異名。〔清異錄、器具、木齒丹〕修養家謂レ梳爲二木齒丹一。

【木上座】527 ゐる、杖。〔山堂肆考〕夾山問二佛印一、和尚闇黎與二什麼人一同來、曰、木上座。

【木芍藥】528 ●芍藥の一種。〔本草、芍藥〕釋名、赤者名二木芍藥一、集解、頌曰、崔豹古今注曰、芍藥有二二種一、有二草芍藥・木芍藥一、木者花大而色深、俗呼爲二牡丹一、非矣。●牡丹の異名。〔楊妃外傳〕開元中、禁中初重二木芍藥一、卽今牡丹也。〔摭異記〕明皇與二貴妃一幸二華清宮一、因宿酒初醒、凭二妃子肩一同看二木芍藥一、親折二一枝一與二妃子一曰、此花香豔、尤能醒酒。〔通志、昆蟲草木略〕然今人貴二牡丹一而賤二芍藥一、獨不レ言二牡丹一、本無名、依二芍藥一得レ名、故其初曰二木芍藥一、古亦無聞、至レ唐始著。

【木朱記】529 木印。〔墨莊漫錄〕河南縣尉司印、前後相傳、不二敢開一匣、開必境內有二盜起一、但以二一木朱記一用代行、移二新舊官交易一、但易二匣之封一耳。

【木順庵】530 木下順庵（37）を見よ。

【木鐘集】531 書名。十一卷。宋、陳埴撰。集と名づけるが、實は語錄である。凡て經說九卷、近思錄問一卷、史論一卷。其の體例は問答體を用ふ。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【木喰蟲】532 昆蟲類中、鞘翅類の一科。樹木の幹を害す。小形で螢に似る。木蠹。

【木數寄】533 木道樂。數寄は好きのあて字。

【木生兒】534 mu⁴ shêng¹ êrh² 遺腹の子。

【木焦油】535 化學用語。モクタール。木材を乾溜するときに得られる黑色粘液。

【木染月】536 陰曆八月の異名。木々の紅葉する月の意。濃染月。紅染月。〔夫傳抄〕松を見て名をぞ忘るる木染月、露やむなしき色やつれなき。

【木素爾】537 山名。新疆省拜城縣の北。又、穆肅爾に作る。

【木太刀】538 木製の刀。木刀。〔武器考證、十〕木鞘卷・木太刀・弦袋。

【木待問】539 宋、永嘉の人。字は蘊之。鄭伯熊の弟子。隆興の初、進士第一。官は太子詹事・禮部尚書。〔南宋館閣錄、七・八〕・〔南宋館閣續錄、八〕・〔宋中興東宮僚題名〕・〔宋人帙事彙編、八百八十五〕・〔宋元學案、三十一〕。

【木乃伊】540 ラ もと、セム族の語に起源し、亞剌比亞語 mūmiyā となり、希伯來語 mōr となり、波斯語 mōr（又は mūn）となり、羅甸語 myrrha（又は mumia）となり、葡萄牙語 momia（又は mumia）となり、葡萄牙語が我が國に傳はつて「ミイラ」となる。木乃伊は英語 mummy の漢音譯。元來、亞剌比亞、又はヌビア邊に生ずる木の液から取つた防腐劑の名であつたが、後、此の藥を屍體に塗り、布で卷いて函に入れ、更に防腐劑を施して棺に納めたものをいふ。蜜人。にいら。〔輟耕錄、木乃伊〕回回田地、有二年

七十八歳老人、自願二捨身濟衆者一、絶不二飲食一、惟澁、身啖二蜜、經月便溺皆蜜、既死、國人檢以二石棺一、仍滿用二蜜浸、鐫二志歳月于棺蓋一、瘞之、俟二百年後一啓封、則蜜劑也、凡人損二折肢體一、食二少許一立愈、雖二彼中一亦不二多得一、俗曰二蜜人一、番言二木乃伊一。

【木竹子】541 ボクチク 果實の名。〔桂海虞衡志〕木竹子、似二枇杷一、肉甘美。

【木長官】542 ボクチャウクワン 松の異名。〔杭州志〕於二潛嶺上一、有二古松一本、盤錯奇怪、嘗有兄弟訟二於有司一、夜行憩二其下一、遲明辨色、乃伯仲也、遂各悔咎、息訟而還、因名二松爲一木長官一。

【木中仙】543 ボクチウセン 松をいふ。〔清異錄、木、木仙〕張鷟明隱二樂山一、林有二古松十餘株一、謂二人曰一、子人中之仙、此木中之仙也。

【木朝顏】544 ボクチョウガン 灌木の名。旋花科に屬し、高さ一米乃至三米。花は鐘狀で紅紫色。ブラジル原産。

【木駿】545 ボクシュン 宋、瑞安の人。字は德遠。嘉熙の進士。永州に教授し、張栻の學を發明す。建昌の守に累官して名聲あり、大理宗丞に除せられて卒す。〔宋史翼、二十二〕・〔宋元學案、五十〕。

【木難珠】546 ボクナンジュ 寶石の名。〔本草、寶石〕集解、時珍曰、寶石、出二西番回鶻地方諸坑内一、雲南選東示有一之、有二紅綠碧紫數色一云云、黃者名二木難珠一。

【木碾子】547 mù niǎn zǐ 農具の一種。畑の畦を平らにするに用ひる。

【木入斗】548 ボクニウトウ 木星が南斗の座に入る。帝王の瑞兆といふ。〔海錄碎事、帝王、祥瑞〕唐乾符中、木入二南斗一、術士邊岡以爲二帝王之兆一、木在ル手、於二文殿一朱、而其應全忠也、諸葉拾遺。

【木防己】549 モクバウコ 樹木の名。原野に自生し、葉は互生で卵形、花は淡青色、果實は黑色。〔つづらふぢ。うまめの。あをつづら。〔本草、防己〕發明、藏器曰、治二風用一木防己一、治二水用一漢防己一。

【木半夏】550 ボクハンゲ 樹木の名。なつぐみ。あきぐみ。やまぐみ。山野自生の落葉灌木。幹の高さ八九尺、葉は鱗毛密生し長卵形で銀色、實は赤色で橢圓形。〔本草、胡頹子〕集解、又有二一種一、大相似、冬凋春實夏熟、人呼爲二大半夏一、无二別功効一。

【木芙蓉】551 ボクフヨウ 樹木の名。きはちす。もくげ。落葉灌木。高さ四五尺。秋の末花を開き、長い柄があり、色は紅・白・黃などあり。芙蓉(9－30694‥10)の●に同じ。〔本草、木芙蓉〕釋名、地芙蓉・木蓮・華木・枇木・拒霜、時珍曰、八九月始開、故名二拒霜一。〔王安石、木芙蓉詩〕水邊無數木芙蓉、露滴胭脂色未凝。

【木芙蓉館】552 ボクフヨウカン 清、勞權(2－2410‥43)の室名。

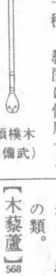
【木覆盆】552 キイブン 木苺(383)に同じ。

【木鼈子】553 モクベツ 草の名。なんばんからすうり。木別子。〔本草、木鼈子〕集解、宗奭曰、木鼈子蔓、歳一枯、但根不レ死、春旋生二苗、葉如二蒲萄一、其子一頭。

【木變石】554 ボクヘンセキ 松樹の化した青石。黑龍江から出る。安石。〔黑龍江外紀〕松入二黑龍江一、歳久化爲二青石一、號二安石一、俗呼二木變石一、爲レ磋可レ發二箭鏃一。

【木樸頭】555 ボクボク 矢の一種。教閱に使用する矢。〔武備志、木樸頭箭圖。(注)施二於教閱一。

【木饅頭】556 ボクマンヂウ 木の名。木蓮(496)の●の異名。又、木製の饅頭樣のもの。〔本草、木蓮〕釋名、薛荔、木饅頭、鬼饅頭、時珍曰、木蓮饅頭、象二其實形一也。〔攘墨客揮犀〕木饅頭、京師亦有之、謂二之無花果一、狀類二小梨一、既熟、色微紅、味頗甘酸、食レ之大發二瘴一、嶺南尤多、州郡待レ客、多取爲二菓牀高盃一、故云、公筵多飣木饅頭、或謂、嶺外詩僧和刻、木作二饅頭狀一、底刻レ字云、大中祥符年、一樣造二五十隻一、談者之過也。



箭頭樸木(志備武)

【木面獸】557 ボクメンジウ 季冬の月、厭疫のために用ひる木製の面。鬼を食ふといふ。〔後漢書、禮儀志〕百官官府、各以二木面獸一能爲レ儺人師一。

【木野狐】558 ボクヤコ 若盤の異名。人を能く惑溺せしめるからいふ。〔拊掌錄〕奕者多廢レ事、率皆失レ業、故人目二碁枰一爲二木野狐一。

【木羊乳】559 モクヤウニウ 草の名。丹參(1－99‥122)の異名。にこたぐさ。〔本草、丹參〕釋名、赤參・山參・鄱蟬草・木羊乳・逐馬・奔馬草。

【木老鴉】560 ボクラウア 宋代、楊幺等の用ひた兵器。堅重な木を取つて作り、長さ二尺許、其の兩端を鋭くし、戰船に用ひる。〔老學庵筆記、一〕木老鴉、一名不藉木、取二堅重木一爲レ之、長財三尺許、鋭二其兩端一、戰船用レ之、尤窮二便習一。

【木榴子】562 ボクリウシ 宋、林鞏(6－14551‥55)の號。

【木律草】564 ボクリツソウ 草の名。鬼臼(12－45758‥24)の異名。〔本草、鬼臼〕釋名、九臼、鬼藥、解毒、爵犀、馬目毒公、害母草、羞天花、木律草、璚田草、獨腳蓮、獨荷草、山荷葉、早荷、八角盤、唐婆鏡。

【木律僧】565 ボクリツソウ 硼木偶のやうな律僧。轉じて、はたらきのないものを排斥していふ。〔雜談集、一〕木律僧不レ信二心地一、荒禪僧不レ守二戒律一。

【木壘河】566 ボクルイガ 縣名。民國置く。新疆省奇台縣の東。

【木鈴子】567 mù líng zǐ 蟲の名。形は金鈴子に似、長さ約一分位。色は黑く、脚に白いまだらがある。秋に出で、其の聲は短くて促る。すず蟲の類。

【木蘖蘆】568 ボクヒエロ 石南科の落葉灌木。はなひりの名。うじぐさ。花は淡緑色、葉は互生して長卵形、毒有り、鼻に入れると嚏を發す。〔本草、木蘖蘆〕集解、藏器曰、木蘖蘆、非二漏蘆一也、乃樹生如二茱萸一、樹高二尺、有二毒一。

【木煉瓦】569 モクレンガワ 煉瓦の大きさに作つた木材。

【木練柿】570 コネリガキ 枝つきのまま熟した柿。

【木鹿城】571 ボクロクジヤウ 漢代、安息國にあつた城の名。〔後漢書、安息國傳〕其東界木鹿城、號爲二小安息一。

【木碗子】572 mù wǎn zǐ おわん。〔紅樓夢、四十一回〕是小孩子使的木碗子。

【木已拱矣】573 モクヒキヨウナリ 墓の木がひと抱へもある程太つた。死んでから久しくなつたこと。〔左氏、僖、三十二〕爾何知、中壽、爾墓之木拱矣。

【木杆可汗】574 ボクカン 後魏の人。突厥伊利可汗の弟。名は俟斗。勇にして多智。嗣立してより以來、征伐に務め、茹茹を擊ち、西、挹挹を破り、東、契丹を走らし、北方の戎狄悉く之に歸す。在位二十年にして卒す。〔隋書、八十一〕。

【木飢火旱】575 ボクキクワカン 太歳が木星の位置にあれば饑饉、火星の位置にあれば旱魃。〔海錄碎事、天、災異〕太歳所レ在、金穰水毀、木飢火旱、此其大經也。

【木毬使者】576 ボクキウシヤ 木まりの靈。〔淥水亭雜識〕功德寺有二木毬使者一、其事近二於怪一、按、宋張世南遊宦紀聞載、雪峯寺僧義存、賜二號眞覺禪師一、寺有二木毬、相傳受二眞覺役使一、呼二僕延一、客、毬自往來、然則以二木毬一爲レ使、浮屠固有二其術一矣。

【木山楓谿】577 ボクサンフウケイ 備後の人。本姓は中島。名は粲。字は子文。通稱は三介。號は楓谿。元治二年歿す。年七十八。丸川松隱に師事す。官は備中新見藩儒・勘定頭・町奉行・用人。木下某の養子。經義は王陽明を奉じ、最も史筆に長ず。著に語孟字義辨・大名世紀がある。

【木思奚德】578 モクシデ 國の名。〔和漢三才圖會、外夷人物、木思奚德〕三才圖會云、木思奚德國、似二韃靼一、至二應天府一、馬行七個月。

【木爾西亞】579 ムルシア 西班牙東南地區の都邑。Murcia の音譯。

【木村愚山】580 キムラグザン 越後の人。名は紘。字は遜志。拙修。通稱は左次郎。號は愚山。明治三年六月歿す、年六十八。古賀伺庵・井部香山に師事す。官は高田藩儒。經學は程朱を宗とす。著に西濱紀行・明史稿訓點がある。〔北越名流遺芳〕。

【木村巽齋】581 キムラソンサイ 大阪の人。名は孔恭。字は世鷹。通稱は坪井屋吉右衛門。號は巽齋・蓼葭堂・享和二年一月二十五日歿す、年六十七。片山北海・大成禪師・津島桂庵・大岡春卜・柳澤淇園・僧鶴亭・池野大雅等に儒・佛・本草・畫を學ぶ。初、大阪南堀江唐金橋に住し、造酒を業とす。後、家產を蕩盡し、文房具を鬻ぐ。著に櫻譜・一角纂考・影宋本爾雅、校刊・易乾鑿度、校・弁山圖記法・溫泉紀述・介翁茶史、校・海外佚書提要・海外佚書目・甘氏印正、校・匡謬正俗、校・儀禮逸經傳、校・藝苑贅言・蓼葭堂書目・蓼葭堂寄題集・蓼葭堂琴譜・蓼葭堂前後集・蓼葭堂骨董志・蓼葭

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com